

INTELLIGENCE

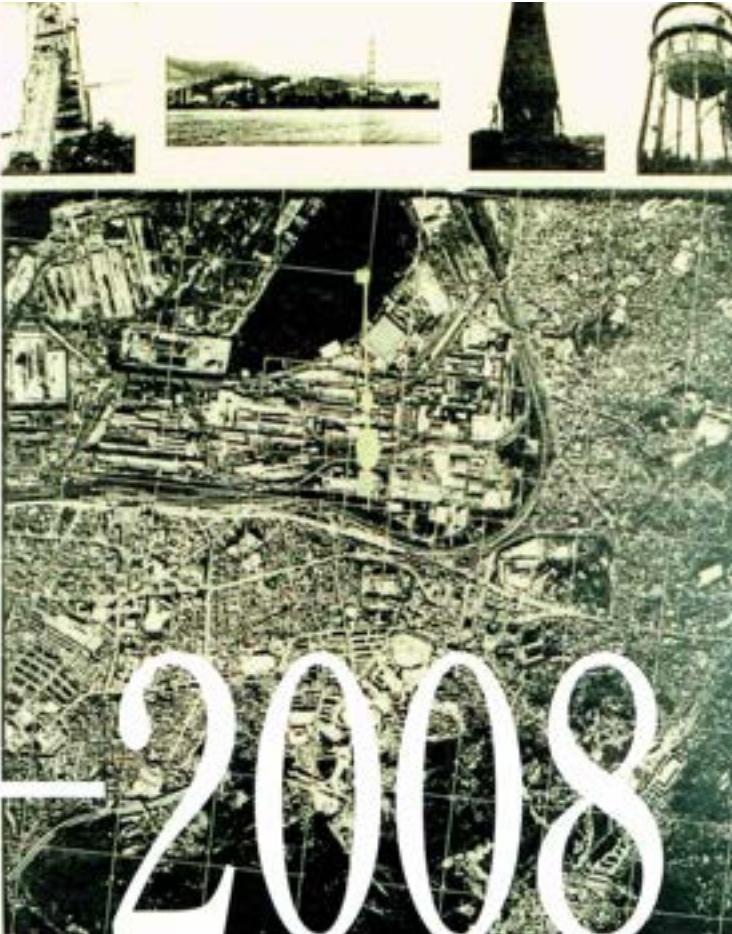
COMPOUND

1901

「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。

「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。

「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。
「機械、機械、機械」という言葉。



千葉県建築学生賞20周年記念



目 次

●	
ごあいさつ／明智克夫	2
千葉県建築学生賞20周年記念に寄せて／若木滋	3
千葉県建築学生賞の20年	4
1th	6
2th	8
3th	10
4th	12
5th	14
6th	16
7th	18
8th	20
9th	22
10th	24
11th	26
12th	28
13th	30
14th	32
15th	34
16th	36
17th	38
18th	40
19th	42
20th	44
歴代委員	46
歴代共催・後援・協賛	47
主催団体と主な活動	48

1989—2008

千葉県建築学生賞20周年記念

ごあいさつ

歴代会長会 会長

明智 克夫



千葉県建築学生賞が今年で第20回を迎えることができ、当初から関わってきた一人として誠に感無量のものがあります。

昭和63年、日本建築学会全国大会が日本大学生産工学部で開催されるに当たって、県内の建築団体で何か協力して欲しいとの要請を受け、作品パネルを提供することになりました。その後、折角築き上げた産学の絆を更に発展させるために、学生賞制度を発足し、平成元年に第一回千葉県建築三会学生賞をスタート致しました。

県内の建築学科をもつ4大学5学部のご協力を得て、各学部より2点づつ優秀な卒業設計を推薦して頂き、われわれ建築三会（千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会、千葉県建築設計監理協会）で選ばれた作品を表彰し、エールを送ることになりました。当時は、関東では唯一栃木県しか卒業制作展はなかったのですが、千葉県の学生賞実施がきっかけとなり、その後各県で追従するようになりました。

第1回から4回まで、私が審査委員長を務めることになり、その責任の重さに打ちひしがれる想いでいた。大学での設計の集大成ともなる卒業設計は夢とロマン溢れる楽しい作品が多く、中には、学生特有の難解な理論を振りかざしたコンセプトなどもあり、それらを丁寧に読み取りながら採点するのですから、本当にしんどい作業の連続で、懸命苦悶しながら審査を進めて参りました。

人の作品を審査することは、まさに審査する側が審査されることであり、われわれの見識と能力が問われていることに他なりません。そのような緊張感のもとで、できるだけ公正、公平に評価することに最善を尽くして参りました。

当初は、審査日から表彰日まで時間が極めて少なく、数日間で講評を書き、ワープロを打ち、参加者の人数分の部数をコピーして会場に持ち込むという大変な作業を審査委員長一人でやらざるを得ませんでした。今振り返ってみると、大変責任の重い仕事を無事にやり遂げることができて、我ながら満足感を覚える次第です。

第5回から、審査委員長を夏目勝也氏にバトンタッチすることになりました。肩の荷を降ろすことができました。そしてこの回から、審査経過についても公開するとともに、審査員自らの感想を学生諸君に開示し、表彰式後の祝賀会の席で意見交換の場を設けました。

小生の選考基準としては、①適切な課題の創造とその解決能力、②明快なコンセプトに支えられた創造性豊かなデザイン力、③高度なプレゼンテーション技術。以上の3点を最重要項目として採点して参りました。

回を重ねるに従い、作品のレベルも向上し、魅力溢れる卒業設計が多数出展されるようになり、作品点数も現在では、6大学、10学部から20点を数えるまでに成長致しました。これまで、長年にわたりお力添えを賜りました各大学の先生方に対しまして改めて深く感謝申し上げます。

最近では、審査会も公開審査とし、展示会場も千葉市生涯学習センターにおいて、高校・専門学校の作品展並びに未来の建築家コーナーとして小中学生の絵画も展示するなど、盛り沢山のイベントと併設し、広く一般市民との交流を図りながら、建築文化に対する社会の理解を深めて頂こうと努力致しておるところです。

今後、益々回を重ねながら、卒業設計のより一層の向上と、参加して頂いた各大学、高校・専門学校の更なるご発展をお祈り申し上げ、最後に、長年にわたり学生賞を支えて頂いた建築四会（日本建築学会関東支部千葉支所、千葉県建築家協会、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会）の委員の皆様、そして物心両面でお力添えを賜りました賛助会員の皆様方に深く感謝申し上げご挨拶と致します。

千葉県建築学生賞20周年記念に寄せて

日本大学名誉教授

若木 滋



千葉県建築学生賞が全国に先駆けて開催されて、本年で20年も続けられてこられ、ご案内にもあります。が誇らしい歴史を重ねてこられましたことを、根気と勇気ある「偉大な業績」として賞賛すべきこと、さらにここに20周年記念の催しが執り行われますこと共々、心よりお喜び、お祝い申し上げます。

ここで改めてこの偉業が如何に誇らしいものかを再認識させて頂きました。まずは、地元・地域にご活躍のコミュニティーアーキテクトの皆さんによって、個々の仕事とは別に、共同することによってこの様な方たちの「行動」による「地域貢献という使命」を果たされていることがあります。そしてその結果としては次世代の後継者を見事に育成されておられる仕事にもなっています。

千葉県建築学生賞は、学外における建築設計者教育としての役割を果たされてもあります。褒賞を前提とした選考審査は厳密に踏られており、公平・公正・透明性等の必須原則が貫かれております。ここでの特別に注目されることは、その審査の経緯、経過の状況の把握のされ方であります。期待されていますことは「侃々諤々(かんかんがくがく)」の有様が違った意味の評価にもなり、公表されることにより、後々までに話題として遺されていきます。

評価の結果、それより以上に選出最中の「うんちく」のある「侃々諤々」が求められることになっています。つまりその事が設計の認識を高め、さらに選者の人間をも形成させるといわれ、貴重な研鑽の機会にもなっています。また同時に、これが選者側に対する評価となっています。それ故に、次世代への歴史的な意味を遺してこられたことになります。「侃々諤々」がエネルギー源になっておりますが、さすがこの道20年の見事な偉業であります。本当にご苦労さまでした。

「侃々諤々」と褒賞による評価のことなのですが、昨年「京都迎賓館」が「JIA建築大賞」2006を取得しました。「日本建築学会作品賞」は取れず「作品選奨」の受賞にも至らなかったとのことです。現代の日本の建築を目指して構想されたとのなかで、ここでは和風建築・「和」の評価について問われることになりました。歴史に残りそうな話題です。審査では高い評価を受けながら、学会作品賞の表彰規程にある「技術・芸術の進歩に寄与する優れた作品の対象」からもれたとのことであります。「和風の建築」「日本の和風建築」「現代建築」よくよく見つめてしまいました。ここでも白熱した「侃々諤々」はあったのだろうと勝手に想像しました。一般論として好きとか嫌いとかは人間の脳が「情感」となって決まるもので、生理原則にあるのだそうです。正しいといわれてもどうしても腑におちない経験や、理屈は通らなくともこれでなくてはだめだという好き嫌いも脳のメカニズムに原因があると教えられました(伊東乾・作曲家)。人間の意志決定は理性ではなく情動に支配されることなどからしての評価の判断を見届けなければなりません。

人に感動を与え、賞に結びつくような建築を如何にして創れるのでしょうか。力作、名作を見つめ「侃々諤々」の中から色々な評価を探求し、認識を磨くことになります……。

千葉県建築学生賞に出展した皆様と、それを力強く盛り上げてこられました皆様のご活躍と、ご発展をお祈りいたします。

平成20年3月吉日

千葉県建築学生賞の20年

回(年)	主な出来事	主催団体	座長/会長	審査委員長
1(1989)	●千葉県建築第三会学生賞発足 ○千葉県建築士会・千葉県建築設計監理協会・千葉県建築士事務所協会	(社)千葉県建築士会 千葉県建築設計監理協会 (社)千葉県建築士事務所協会	桑田 昭	明智 克夫
2(1990)	●千葉県建築第三会学生賞 ○記念講演(千葉大学:隈部学生教授「理想の住まいづくり。まちづくり」)	同上	桑田 昭	明智 克夫
3(1991)	●千葉県建築第四会学生賞 ○記念講演(日本大学:山口廣教授「建物の保存と再生」)	(社)千葉県建築士会 千葉県建築設計監理協会 (社)千葉県建築士事務所協会 (社)新日本建築家協会・千葉	明智 克夫	明智 克夫
4(1992)	●千葉県建築第三会学生賞 ○記念講演(千葉工業大学:小原二郎教授「木の文化」)	(社)千葉県建築士会 千葉県建築設計監理協会 (社)新日本建築家協会・千葉	明智 克夫	明智 克夫
5(1993)	●千葉県建築第三会学生賞 ○記念講演(日本大学:若木田教授)	同上	明智 克夫	夏目 輝也
6(1994)	●千葉県建築第三会学生賞	同上	明智 克夫	夏目 輝也
7(1995)	●千葉県建築第四会学生賞 ○記念講演(千葉大学:守塁秀夫教授)	(社)千葉県建築士会 千葉県建築設計監理協会 (社)千葉県建築士事務所協会 (社)新日本建築家協会・千葉	清水 怡	田中 修一
8(1996)	●千葉県建築第四会学生賞	同上	清水 怡	田中 修一
9(1997)	●千葉県建築第四会学生賞	(社)千葉県建築士会 千葉県建築設計監理協会 (社)千葉県建築士事務所協会 (社)日本建築家協会・千葉	籠 住正	岩崎 恒朗
10(1998)	●千葉県建築第四会学生賞 ○記念講演(長崎総合科学大学:池田武邦教授「郷土に根ざした建築」)	同上	籠 住正	岩崎 恒朗
11(1999)	●千葉県建築第四会学生賞 ●審査委員プロフィール公表 ○特別出展:千葉県内工業高等専門学校・建築設計作品	同上	櫻井 修	宇野 武夫
12(2000)	●千葉県建築第四会学生賞 ●公開審査 ●オブザーバー参加:日本大学理工学部交通土木工学科 ○併設展示:千葉県内工業高等学校・建築設計作品 ○併設イベント:图形で遊ぼう=教員ボリドロンでかたち・造形・建築のおもしろさ・楽しさを体験しよう	同上	櫻井 修	宇野 武夫
13(2001)	●公開審査 ○併設出展:県内工業高等学校建築設計作品・千葉県建築四会会員作品 ○併設イベント:「图形づくりを楽しもうPart2」(ふしきな遊びボリドロン) ○建築相談 ○講評誌作成	同上	宇野 武夫	佐竹 良造
14(2002)	●公開審査 ○併設イベント:「图形づくりを楽しもう Part-3」(ふしきな遊びボリドロン) ○併設出展:大学研究作品展・建築団体会員作品展 ○併設出展:県内工業高等学校建築設計作品 ○建築相談	同上	宇野 武夫	佐竹 良造
15(2003)	●公開プレゼンテーション審査 ○併設出展:県内工業高等学校建築設計作品展 ○建築相談	千葉県建築家協会 (社)日本建築学会関東支部千葉支所 (社)千葉県建築士会 (社)千葉県建築士事務所協会	佐竹 良造	寺川 典秀
16(2004)	●公開プレゼンテーション審査 ○併設出展:県内工業高等学校・専門学校建築設計作品展 ○市民参加イベント:「市民の声」アンケート	同上	佐竹 良造	寺川 典秀
17(2005)	●千葉県建築学生賞に改称 ●市民参加型公開プレゼンテーション審査 ●モンキー・パンチ氏を特別審査委員に迎え、特別審査委員賞を設ける ○併設イベント:小学生による「未来の建築家コーナー」 ○市民参加イベント:「市民の声」アンケートに加え中学生アンケート実施	同上	寺川 典秀	加藤 文男
18(2006)	●公開プレゼンテーション審査 ●作品集の編集方針を刷新 ○併設イベント:未来の建築家コーナーに中学生参加 ○県内工業高校建築設計作品展 ○無料建築相談 ○市民参加イベント:「市民の声」アンケートに加え中学生アンケート実施	同上	寺川 典秀	加藤 文男
19(2007)	●出展者作品インデックス公開 ●公開プレゼンテーション審査 ○併設イベント:第10回千葉県工芸生卒業設計コンクール・未来の建築家コーナー ○市民参加イベント:「市民の声」アンケート ○無料建築相談	同上	加藤 文男	森田 敬介
20(2008)	●20周年記念誌発行 ○併設イベント:20年の歩みパネル展示 ○第2回千葉県工芸生卒業コンクール ○市民参加イベント:「市民の声」アンケート	同上	森田 敬介	星野 浩

●: 千葉県建築学生賞 ○: 併設関連イベント

審査会場	展示会場	出展大学数	出展数	後援	協賛	社会一般
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4校 5科	10点	2	●リカルド事件 ●昭和天皇崩御、昭和から平成へ(1/7) ●初の消費税スタート、税率3.34(4/1) ●中国・天安門事件(6/3/4) ●美空ひばり死去
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●東西ドイル統合 ●バブル経済の崩壊 ●大学入試、共通一次試験から大学センター試験へ ●日本人初の宇宙飛行士(大山豊) ●イタリア軍がクウェートに侵攻
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●露仙翁對馬火神流 ●清涼戦争勃発 ●ソ連崩壊 ●東京新都府完成 ●千代の富士引退—若貴づる
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●大規模小売店舗法施行 ●暴力団対策法施行 ●日本人宇宙飛行士毛利衛氏宇宙へ ●PKO暴力法成立
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●望子さきま稚子さま誕成婚 ●欧州連合(EU)発足 ●インボーブリッジ開通 ●外国人力士・曙が初の横綱に ●サッカーヨーロッパリーグ開幕 ●北海道西沖地震
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●自民・社会・さきがけ」進立で村山政権誕生 ●松本サリン事件 ●初の女性宇宙飛行士向井千秋氏宇宙へ ●開西国際空港開港 ●北朝鮮 金日成主席死去
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●阪神淡路大震災発生 ●地下鉄サリン事件 ●東京都 青島、大森 横浜知事誕生 ●テレサ・テン死去 ●イスラエル ラビン首相暗殺
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●福島エイズで官学トップ逮捕 ●0137食中毒騒動 ●北海道 鮫洲トンネル崩落 ●ペルー日本大使公邸人質事件 ●住専」で6800億円の財政資金導入
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●香港、中国へ返還 ●金融機関の経営破綻相次ぐ ●消費税率が5%にアップ ●ダイアナ妃、パリで交通事故死 ●神戸で続児童ねじれ事件が発生
千葉工業大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	2	●郵便多号7桁化 ●長野オリンピック開幕 ●日本金銀ゼッギハパンスタート ●モーターGP杯日本初出場 ●インド、パキスタンが核実験
日本大学	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	9	2	●東海電気力施設で国内初の臨界事故 ●国債闇取引法成立 ●欧州単一通貨「ユーロ」が誕生 ●コンピューター2000年問題で世界中が対応に躍起
	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	4 5	10	4	●雪印乳業製品集団食中毒事件発覚 ●手百貨店そごうが倒産 ●三宅島付近で大山唯内、島民砲 ●西鉄バスジャック事件
	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	5 7	14	7	●津田沼小学校児童群害 ●中央省庁再編 ●小淵内閣が発足 ●米国、同時に多発テロ、世界貿易センタービル倒壊 ●東京ディズニーシー・グランドオープン
	津田沼サンベティック	大学 学部 学科	5 9	18	7	●日本、韓国にてFIFAワールドカップ開催 ●初の日明直航会話、拉致被害者5名解放 ●小堀昌隆、田中錦一にノーベル賞
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	5 9	18	4 10	●スペースシャトルコロンビア号事故 ●中国・台湾を中心にSARSが猛威をふるう ●六本木ヒルズ開業
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	5 9	18	6 22	●ロシアで学校占拠・犠牲者は500人以上 ●スマトラ島沖地震、インド洋津波 ●鳥インフルエンザ騒動 ●イラクへ自衛隊の派遣開始 ●NASA火星探査車着陸に成功
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	6 10	18	17 23	●JR西日本福知山線で脱線事故、107名が犠牲 ●愛知万博、愛・地球博開催 ●ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世が死去 ●マジック・ホテル耐震性偽装発覚
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	6 9	20	15 21	●米国産牛肉全量輸入禁止 ●皇室に男児誕生 ●サダメ・フセイン処刑 ●タイプドア擅用 ●安倍内閣発足 ●ワールド・ベースボール・クラシック日本一
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	5 9	18	12 35	●参院選で自民党が歴史的勝利「ねじれ国会」に ●安倍晋三首相が突然退陣、後任に福田赳氏 ●防衛省が防衛省に移行 ●アメリカでミシシッピ川に架かる橋が崩落
千葉市生涯学習センター		大学 学部 学科	6 10	18	15 46	●主要国首脳会議の開催地が北海道洞爺湖地域に決定



1th

応募作品一覧

努力賞	KAIHIN COMMUNITY CENTER	水落 秀木	千葉大学 工学部 建築学科
努力賞	コミュニケーションマーケット、犬の散歩道	若松 永	千葉大学 工学部 建築学科
努力賞	新型バウハウスの実験	若林 宇興	千葉工業大学 工学部 建築学科
努力賞	CASINO	小林 英子	千葉工業大学 工学部 建築学科
金賞	INTELLIGENCE COMPOUND 1901	岡松 利彦	東京理科大学 理工学部 建築学科
努力賞	NOISE—脱消費者時代—	奥井 治彦	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	A SPACE SCHOOL	角野 文和	日本大学 生産工学部 建築工学科
努力賞	オペラハウス“スノップ”	水島 裕紀	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	水の惑星 -INTERNATIONAL SPACE PORT PROJECT 2089-	近藤 陽次	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
努力賞	海域高松城を核とした宇高速船メモリアルビア計画」	毛見 実	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

県内4大学5学部より各2点づつ推薦された卒業設計は、いずれもハイレベルの甲乙つけ難い力作揃いで、9名の審査委員を大いに悩ませました。

私たちが日常の設計活動では到底考えられないような新鮮で夢とロマンに満ちた楽しいプロジェクトばかりで、久し振りに胸躍らせ、目を輝かせて感動の一日を体験させて頂きました。

選考方法としては、各委員が10点の中からベスト5点を選び、それぞれ5・4・3・2・1点という採点で投票した得点の上位3点を選び、さらに投票によって金、銀、銅の順位を決定致しました。

今回初めての審査会にもかかわらず、特に大きな問題もなくスムーズに選考が終了し、審査員一同ほっと安堵の胸を撫で下ろしたところです。

投票の結果においても、すべての作品に得点が記点され、如何にそれぞれの作品のレベルが伯仲しているかを物語っておりました。

この度の三会学生賞開催に当たりまして、各大学の先生方には確かにご指導を賜りまして心より深く感謝申し上げます。

また、学生諸君には、素晴らしい作品をご応募頂き、本当にありがとうございました。

お蔭様で永年の夢であった、千葉県内に学ぶ建築系の学生さんたちにエールを送るための学生賞が実現できましたこと、心から嬉し

く存じております。

これを契機に、本制度がさらに普及発展し、卒業設計の進歩向上と優秀な建築学生の育成並びに各大学の益々のご発展を祈念し、第一回の記念すべき学生賞選考結果報告と致します。

(審査委員長：明智克夫)

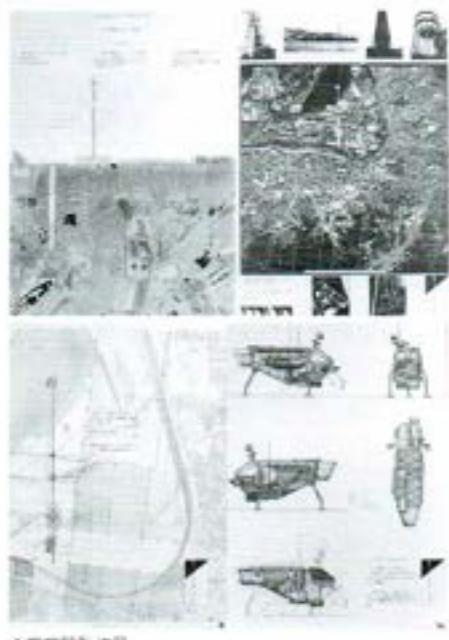
審査委員長 明智克夫(千葉県建築設計監理協会)
委員 特田成男(千葉県建築士会)
委員 斎藤英一(千葉県建築士会)
委員 千葉茂(千葉県建築士会)
委員 畠田正(千葉県建築設計監理協会)

委員 菊地伸正(千葉県建築設計監理協会)
委員 加藤伸男(千葉県建築士事務所協会)
委員 青山一雄(千葉県建築士事務所協会)
委員 成田信郎(千葉県建築士事務所協会)

1989
平成1年

金賞

INTELLIGENCE COMPOUND 1901



▲平成設計作品

岡松 利彦 東京理科大学 理工学部 建築学科



コンセプト

「俺達、飢えているんだ！ 食えるものはあるにはあるんだが……ウマイものが食いてえんだ！」「俺達、虞る程のもの情報を手に入れる事ができるんだ！」だがどれもクズばかり。俺達は考えもつかない新鮮なウマイもの情報を体感したいんだ！」20世紀、情報はStockしておく時代からFlowの時代に移った。そして、その時代も終わりをつけ情報をCompoundする時代へと移っていく。」

目に見えない情報のFlowを建築として視覚化することで、新たな建築の方向性が見えてくるのではないかと考えた。また、情報をCompoundすることによって、新たに生まれ出された情報の可能性と危険性を探ってみた。

情報を「アツメル」「ツクリ」「カンジル」拠点として、第二次産業のシンボル、北九州の八幡製鉄所の溶鉱炉跡を中心に、新しい情報の「溶鉱炉」を開拓する。

審査委員講評

北九州市八幡製鉄所の遊休地を選び、ポスト工業化地域の「村おこし」運動の一環として提案されたアリティに富んだ作品である。

情報は超情報化社会に向けてSTOCKからFLOW、COMPOUNDの時代に移行しつつあり、機械を駆使した情報の収集、合成、操作を経て、より良質な情報を提供し、より新鮮なウマイ「もの」を体験しようという構想である。

見事に時代にマッチしたテーマ性があり、独創性、ドラマ性に富んだ、何とも不思議でメカニカルな発想である。建築の領域を超えた新しいジャンルを追求した、まさに学生ならではの夢多き作品として好感がもてた。特に、プレゼンテーションの技術が群を抜いており、よくここまで表現できたものだと審査員一同感心したことしきりであった。

(審査委員長：明智克夫)

受賞者の現在



▲N社関西工場(第1・第2工場)

20年前に、東京理科大学を卒業し、同大学の修士課程へ進学しました。その後、住宅を多く手がける事務所へ就職し、1999年に独立しました。現在は、住宅、集合住宅、店舗、工場、病院、相撲部屋など、用途も規模も様々な建物を手がけています。

仕事をする上で、常に心がけている事の一つに、「距離感」を大切にすることがあります。距離感には、物理的な距離と精神的な距離があり、間(ま)という言葉にも置き換えられます。時代と共に変化し続ける距離感をプロジェクト毎に的確に読み出し、ベストな距離(ま)を提案していきたいと思っています。

ここで紹介する建物は、関西にある精密機械を作る第一・第二工場と東京にある相撲部屋です。

精密機械の第一・第二工場は、機能・性格・大きさが全く異なります。隣り合う敷地に機能的な距離感を持たせました。

相撲部屋では、親方は弟子たちのことを子供と呼び、そこには新しい家族の形態があります。その家族たちが心地良い距離感を保ちながら暮らせる住まいを設計しました。



▲錦山部屋(左: 稚古場、右: エントランス)



2th

応募作品一覧

銅賞	Maison de la Culture du Japon à Paris	竹内 智雄	千葉大学 工学部 建築学科
努力賞	WATER FRONT ART CENTER	大島 順	千葉大学 工学部 建築学科
努力賞	ILLUSION	金城 美佳	千葉工業大学 工学部 建築学科
努力賞	自然・都市・建築	萩原 健	千葉工業大学 工学部 建築学科
努力賞	神々のテクノロジー	滝澤 憲之	東京理科大学 理工学部 建築学科
努力賞	Intelligent Imperialism	田中 公康	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	水かいわい空間の再生	湯浅 篤哉	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	SCHOOL	高橋 那明	日本大学 生産工学部 建築工学科
金賞	KAWASAKI MEDIA CITY PROJECT	佐久間 明	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
努力賞	時世(とき)の記号	長谷川晃三郎	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

昨年に引き続き、県内4大学5学部の卒業設計展が順次開催されました。

今年も、3月17日千葉工大の製図室を借用し、三会から選出された9名の委員の投票によって入賞作品の選考を行いました。

作品はいずれも個性豊かなレベルの高い力作揃いで、審査員一同厳正かつ公平に競争を重ねながら審査を進めました。今回は最初に各委員が全作品に対してコメントを述べ、続いて投票の手続きを経て、金賞、銀賞各1点、銅賞2点を選出し、惜しくも選ばれなかった作品には努力賞が授与されました。

今回の大きな特徴は、10作品のうち6点が水辺に関わる提案で、ウォーターフロント時代を反映しており、大変興味深く審査させて頂きました。

3月19日より4日間、津田沼駅前のサンベティックで展示会を行い、21日の表彰式当日に記念講演会を開催しました。講演は千葉大学の脇部専生教授による「住まいづくり、まちづくり」で、各國の優れた事例がスライドで紹介され、住まい方の個性化への対応、インテリアデザインや自然との調和を求める良好な居住環境づくりなど、外国生活の豊富な経験をもとに幅広い研究成果をお聞きすることができました。

続く表彰式では、主催者を代表して桑田昭千葉設監協会会長の挨

拶に続いて、加藤栄男事務所協会会長より表彰状と記念品が授与されました。

今回、めでたく受賞された諸君に対して心より祝意を表すとともに、今後、実社会においても各々の個性と恵まれた資質を、さらに伸ばして活躍して欲しいと意願して止みません。

ご協力頂いた各大学におかれましても、今後もさらに優秀な人材を育成して頂き、わが千葉県内に定着して素晴らしい建築文化づくりに貢献して頂きたいと切に望んでおります。

(審査委員長：明智亮夫)

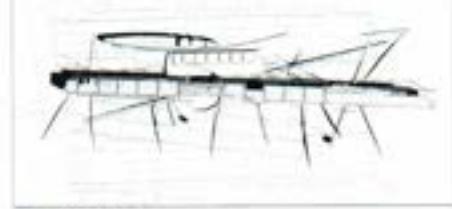
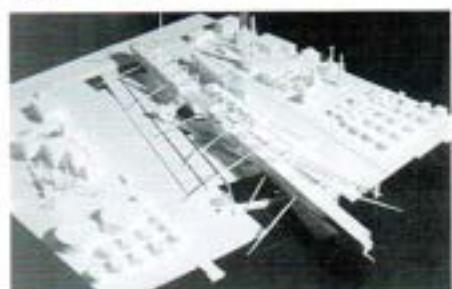
審査委員長 明智克夫（千葉県建築設計監理協会）
委員 鶴田成男（千葉県建築士会）
委員 斎野 周（千葉県建築士会）
委員 千葉 茂（千葉県建築士会）
委員 真田 明（千葉県建築設計監理協会）

委員 姉 伸正（千葉県建築設計監理協会）
委員 加藤英男（千葉県建築士事務所組合）
委員 青山 清（千葉県建築士事務所組合）
委員 成毛信昭（千葉県建築士事務所組合）

1990
平成2年

金賞

KAWASAKI MEDIA CITY PROJECT



▲卒業設計作品

佐久間 明 日本大学 工学部 海洋建築工学科



コンセプト

当時東京湾岸では数多くのプロジェクトが提案されていたが、その構想の多くは本来あるべき姿である親水空間の形成という視点を欠いているかに思われた。このような中、臨海部の倉庫をスタジオやレストランなどに再利用する事は若者たちの関心を集め、ウォーターフロントに少しずつ人々を導いていた。非日常的な背景がこれらの施設を特別なものとして映し出したのである。

メディアとはコミュニケーションのための媒体（なかだちとなるもの）である。川崎は交通幹線、河川、運河等によって細かく分断され、様々な背景「メディア」が存在する都市である。本計画はこの「メディアシティー川崎」の工場地帯の運河にスタジオコンプレックスを設け、アーティストや市民に創造、表現行為の場を提供する。水とアートをメディアとして人々のコミュニケーションを育み、人々をウォーターフロントに向かわせ、見捨てられた人工環境の再利用を図ろうとするものである。

審査委員講評

川崎の臨海工業地帯跡地に、川崎のコンテクストとしての運河を利用した若者のスタジオコンプレックスの提案であり、ガスタンクや煙突、クレーン等をモチーフとして、ハイテクと奥地の二面性を宇宙船のイメージで表現した情報発信基地である。

臨海アメニティー空間の創出によって、これまで見捨てられてきた人工環境を再構築し、人々を再び水際には呼び戻すという構想でなかなか興味深いものである。佐久間君の豊かな感性と洗練された創造力に裏付けられた作品は、かなり高い完成度をもち、審査員一同文句なしに最優秀賞に決定した。

グラフィカルなプレゼンテーションも見応えがあり、群を抜いた力量である。

（審査委員長：明智克夫）

受賞者の現在



◀ 鶴井沢山荘



▲鶴井沢山荘

当時はバブル景気で、建築に勢いがあった時代でした。設計競技などもたくさんあり、研究室の活動の手伝いや、友人といろいろと挑戦した日々は大変懐かしい思い出です。ティコンストクションティヴィズムが雑誌に掲載されていたころで、作品をみると私も相当影響を受けていた事がわかります。卒業後設計事務所に就職し、地下鉄駅舎、オフィスビル、住宅などを担当し、大変良い経験をさせていただきました。その後独立し、早7年目を迎えておりますが、この機会に川崎のプロジェクトを振り返りつつ、最近設計・監理した住宅を紹介させて頂きます。

「鶴井沢山荘」は築40年の住宅のリフォームで、傾斜天井の下に一階がりの居住空間を設けた作品です。傾斜天井のイメージはテッキを介してそのまま急斜面の谷へと繋がり、その先には沢が流れています。周辺はからまつを主にした樹木で囲まれおり、季節のよいときは建具を全開放し、建物と周辺環境が一体となった空間が体感できます。

「鶴井沢山荘」は70歳を過ぎたご夫婦のための住宅です。自然光を受けることが困難な住宅地で、吹抜けや上部の開口部より光を取り入れるように配慮した住宅です。空間とは空気みたいなもので、物理的に限界できないものです。空間は内側から考えて行くことが基本だと思いますが、その箱のみではなく、その先に広がっている世界を含めて成立するものだと考えています。川崎のプロジェクトを思い起こしますと、その内部空間についてはよくイメージできていないのが反省点ですが、外へと広がっていくイメージが評価されたのかなと思います。このところ建築を考える際、自然に敬意を払いながら少しだけドラマを演出していくことを心掛けています。人と自然のコミュニケーションの媒体となるような空間を創ることが、意味期限が長く、人が明るく健康的に生きて行けるためのデザインであることを信じています。ここで言う自然とは、都市環境も含んでいます。



3th

審査委員長 明智克夫 (千葉県建築設計監理協会)
委員 岸野 審 (千葉県建築士会)
委員 千葉 茂 (千葉県建築士会)
委員 清水 伸 (千葉県建築士会)

応募作品一覧

奨励賞	アート・パーク	赤崎 格哉	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	Reincarnation ～自己の再生～	淡路 順一	千葉大学 工学部 建築学科
銅賞	造船所再開発計画 (ドックランドワーフ)	吉田 江利	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	川崎ベイプロジェクト	加藤 雄	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	NEXUS The plan of the buffer zone	高旗 雅弘	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	GALAXY IN TOKYO	本田 茂樹	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	生活の中心としての江ノ電	岡本 真吾	日本大学 生産工学科 建築工学科
奨励賞	水郷都市 川の手 ～東京都墨田区～	小笠原慈之	日本大学 生産工学科 建築工学科
金賞	Nature Canvas:492×196M ～黒部ダム建築化と環境の對論～	矢野 一志	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
銅賞	The Afterimage ～記憶の残像～	山口 哲也	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

今年も3月21日から4日間、学生真作品展がサンベティックで毎々しく開催され、会場には買い物帰りの親子連れや若者たちで連日賑わいを呈し、特に模型作品に興味をひかれて子供たちが大勢詰めかけました。

これまでの三回からJIA千葉が新たに参加して千葉県建築四団体の主催となりました。

今回も各大学から選出された優れた作品が集まり、そのレベルも昨年に勝るとも劣らぬ力作揃いで、審査員一同、重責を感じながら厳正かつ公正な審査を進みました。

審査は各団体より選出された12名の委員で行い、金・銀・銅2点の4点を入賞作品と決定しました。

人の作品を審査することは、まさに、審査員の見識を問われる事であり、逆にわれわれが学生や先生方から審査されるような緊張感と責任感で身の引き締まる思いでした。

幸いにして、過去2回にわたる審査結果では、本学生真で高い評価を与えた作品が、他の卒業設計コンテストでも優秀な成績を納めており、自分たちの目に狂いがなかったことを改めて自負致しております。

年々プレゼンテーションの技術が進歩し、表現技法の向上には目を見張るものがあります。その一方で、一人よがりで相手に対して

十分な説明が行き届かず、折角の提案が理解し難い自己陶酔型の作品も見受けられました。

表彰式に先立って、日大生産工学科の山口廣教授の「建物の保存と再生」をテーマに記念講演会が開催され、先生の豊富なご経験に基づいて保存の価値や手法について、スライドを交えた楽しいお話を伺うことができ、多数の会員及び学生たちは深い感銘を受けました。

(審査委員長：明智克夫)

委員 齋田 哲 (千葉県建築設計監理協会)
委員 館 住正 (千葉県建築設計監理協会)
委員 加藤実男 (千葉県建築士事務所協会)
委員 青山 順 (千葉県建築士事務所協会)

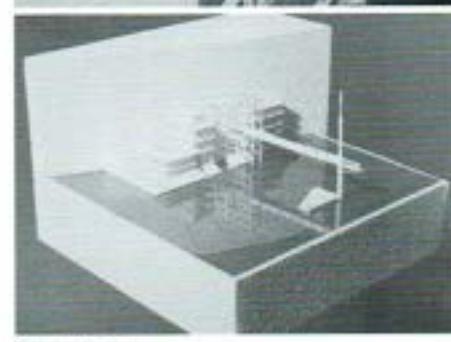
委員 成毛口的 (千葉県建築士事務所協会)
委員 舟島宏治 (新日本建築家協会・千葉)
委員 夏目勝也 (新日本建築家協会・千葉)
委員 久山耕一 (新日本建築家協会・千葉)

1991
平成3年

金賞

Nature Canvas:492×196M

~黒部ダム建築化と環境の警鐘~



▲卒業設計作品

矢野 一志 日本大学 理工学部 海洋建築工学科

コンセプト

本計画では、高度経済成長を背景に技術万能時代の産物として産み落とされた巨大構造物(黒部ダム)に新たな空間異化装置を付加することにより、周囲の自然を享受する建築として蘇らせると同時に、環境破壊の原因であるエネルギー問題に対して21世紀に向けての新しいエネルギー体系を研究・開発そして啓蒙する施設を提案する。

ここで試みられるのは、462×186mの巨大なキャンバス(ダム堤防)に人類と自然とが先端技術によって共生する時代を拓くことである。具体的には、失われた川の流れと渓谷特有の文脈を顕在化するため、ダムは「水の地下」とさまざまな空間異化装置が、またダム湖には水位によって形態が変化する湖上庭園が設置され、満水時には湖底から「祈りの劇場」が姿を現す。それらの地下や水中に埋設された空間は、人が自然に包みこまれた存在であることを暗示し、人類に対して環境への警鐘を鳴らしている。

審査委員講評

見事に金賞の栄誉に輝いた矢野君の作品は、黒部ダムの堤防を巨大なキャンバスにみたてた新しい空間装置であり、先端技術によって人類と大自然との共生を計り、人類によって創られてきた環境破壊に対する警鐘と、21世紀に向けた新しいエネルギー体系の研究・開発及び啓蒙を目指した作品である。

近年の科学技術の進歩による機械文明は、エネルギーの確保のために大自然を次々と破壊し環境の荒廃をもたらしてきた。これらは自然エコロジーの破壊を招き、いまや地球環境は重大な曲がり角に差しかかっている。いま、人類の軋轍を傾けて環境問題に取り組まねばならない最後のチャンスであるとの強い思い入れが、ひしひしと伝わってくる。

雄大な自然に包まれた黒部ダムに新しい技術による建築化を試み、人類が自然を冒していった過ちを貢うというコンセプチュアルな構想は、審査員の心を打った。

(審査委員長: 明智克夫)

受賞者の現在



▲上:Serezo城城 下:Colline白銀

現在、建築設計事務所(有限会社 ウィークサムズスタジオ)を主宰し、設計活動を行っています。独立するまでに、住民参加によるコミュニティセンター、コーポラティブハウスなどの設計監理に携わり、その経験を生かして今後も地域社会や地域住民に貢献できるような建築を創っていきたいと考えています。

最近は、主に集合住宅の設計監理に携わっており、連續長屋形式の「Serezo城城」では、地域住民に愛着のある大きな桜の木を保存し、各戸は中庭を囲む配置としました。静のない生垣の街が特徴であった城城の住宅地の風景を継承するために、建物をピロティで持ち上げ、街と連続した環境を創り出すことを試みていました。桜のあるオープンスペースに面した住戸は熱線反射例子のカーテンウォールとして、プライバシーを確保しながら街に開くように計画しました。2面に直交したカーテンウォールに桜が映り込む時、桜は万華鏡のように増殖し、そこに新たな環境が創出されることが意図されています。

神楽坂の集合住宅「Colline白銀」では、直線的なアリティを持たない一般的な集合住宅の住戸とは異なる、身体感覚と景色(シーケンス)の運動する集合住宅の空間を提案しました。公園の緑が面する住空間に入れ子形式の空間を挿入し、レベル差のある座床、連続する天井(横間)、回遊性などの手法を用いて、開放性のある快適な住環境の提案を試みていました。

卒業設計で当時、地球環境の警鐘を主題にしましたが、不確かな世界の確からしさが求められている現代社会においては、環境を継承しながら、新しい時代の環境を創出していくことが、ますます大切な時代になってきています。初心を忘れずに、今後も設計活動を行っていきたいと考えています。



4th

応募作品一覧

奨励賞	碓氷工芸・民話館	慎 茜樹	千葉大学 工学部 建築学科
銅賞	建築美術館	信藤 順一郎	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	A STRATUM, ASSEMBLY OF GENERATION	山本 憲示	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	PICASO COMPLEX	北井 風子	千葉工業大学 工学部 建築学科
銀賞	不良らしき老人はギルガメッシュの野望を夢見るか?	今泉 純	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	interface or inter-space	込山 敦司	東京理科大学 理工学部 建築学科
銅賞	THE STARTING POINT	曾根 美、寺山 直宏	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	HATCH	富永 隆弘	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	海の聲	廣川 雅樹	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
金賞	OSAKA MEDIA PIER STATION	高橋 武志	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

第4回を迎えた学生賞は、都合により事務所協会が離脱して再び三会で主催することになりました。今回も昨年を上回るハイレベルで粒ぞろいの作品が応募されました。中にはかなり抽象的、哲学的なコンセプトで、審査員泣かせの作品もありました。

何とかして学生の想いを理解し、公正な評価をしたいと審査員一同苦労しながら、その責任を果たしたところです。

今回の特徴として、時代を反映して環境問題や高齢化社会問題に取り組んだものが目立ちました。

今回から、審査員全員の講評を公開し、審査員一人ひとりが学生諸君に対して想いを込めたメッセージを送ることになりました。

作品展示会場も大勢の市民や学生が詰めかけ、中でも子供たちが興味深く模型を眺めている姿が印象的でした。将来、これらのちびっ子たちの中から優秀な建築家が誕生するかも知れません。

最終日に記念講演会を開催し、千葉工大の小原二郎教授による「木の文化」というテーマで講演を行い、木の特性から木のルーツに至るまで幅広いお話を深い感銘を受けました。

続いて表彰式に移り、賞品と記念品の贈呈、審査講評の発表等に続いて、学生諸君から作品に対する想いや苦労話を発表して頂き、和やかなうちに第四回学生賞のすべてのイベントを終了することができました。

来年は第5回を記念して盛大に開催し、これまでの受賞経験者や3年生有志も招待して、次年度の卒業制作へのモチベーションを高めて頂き、より一層素晴らしい作品を期待致すことになりました。

(審査委員長: 明智克夫)

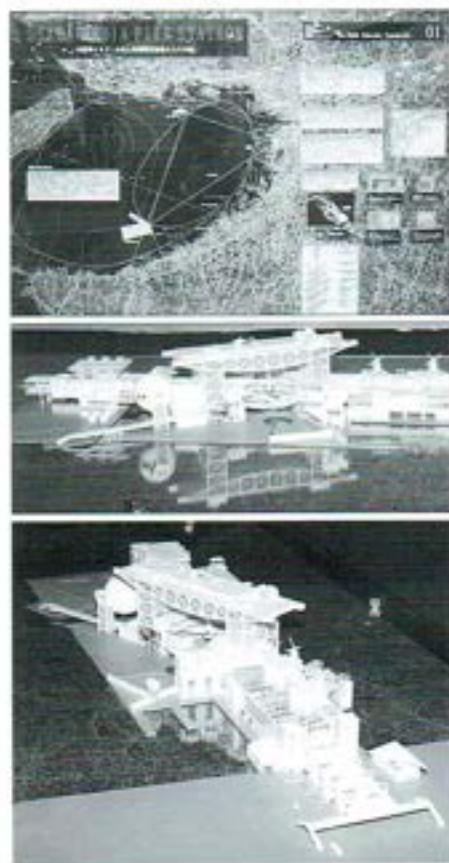
審査委員長 明智克夫 (千葉県建築設計監理協会)
委員 周慶紀男 (千葉県建築士会)
委員 沢野 雅 (千葉県建築士会)
委員 藤 伸正 (千葉県建築設計監理協会)

委員 田代成和 (千葉県建築設計監理協会)
委員 夏目勝也 (新日本建築家協会・千葉)
委員 島貴世男 (新日本建築家協会・千葉)
委員 石田文太郎 (新日本建築家協会・千葉)

1992
平成4年

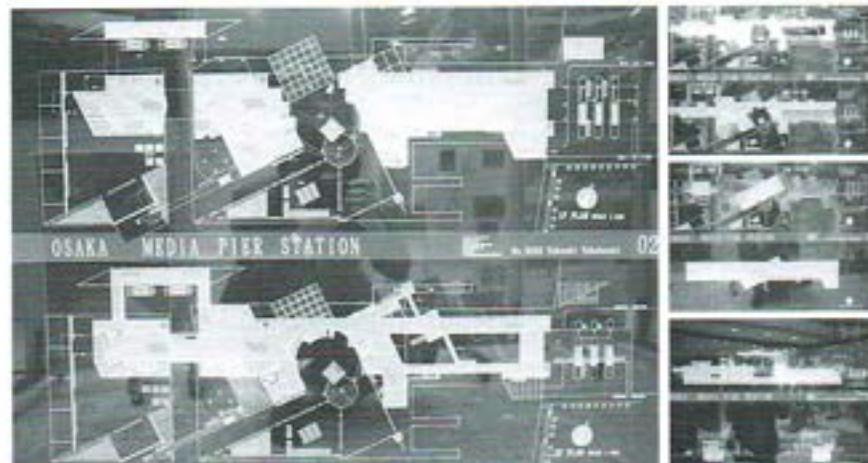
金賞

● OSAKA MEDIA PIER STATION



▲卒業設計作品

高橋 武志 日本大学 理工学部 海洋建築工学科



審査委員講評

大阪湾のトライアングル構造の基点となる各種交通システムの拠点駅で、あらゆるメディアを媒体とした国際的教育施設を複合させた情報発信基地としての機能をもつ。

新しい時代に向かって出航する船体をモチーフに、洗練されたデザインと明快なコンセプトに裏付けられたアメニティ豊かな空間構成は魅力的である。立体的なドローイングの手法によるプレゼンテーション、精度の高い模型製作とともに傑出した出来栄えで、審査員全員より高い評価を得た。

最優秀賞に相応しい作品であり、今後の一層の飛躍が期待される高橋君である。

(審査委員長：明智克夫)



5th

応募作品一覧

奨励賞	市川市生涯学習センター	室井 由紀恵	千葉大学 工学部 建築学科
特別賞	教育施設を有する美術館 ~幕張VIDEOGALLERY~	片桐 康志	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	みんなのスポーツ	関口 拓	千葉工業大学 工学部 建築学科
特別賞	SITAMATI STREET	原田 勝博	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	開示された体系の臨海をめざして ~都市コードの誕生~	佐久間 達也	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	media eros	勝目 高行	東京理科大学 理工学部 建築学科
銅賞	HOSPIS FOR AIDS PATIENTS IN URBANISM	谷城 隆雄	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	ART Complex Muse	棟居 克之	日本大学 生産工学部 建築工学科
金賞	THE GUEST HOUSE	片桐 康志	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
銀賞	EURO WATER MART	宝田 陵	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

回を重ね、学生賞が定着してきたことを実感し、審査も新しい方法の摸索が始まりました。3段階のPHASEを設け、順次賞の特定へ収束するようにし、また討論が十分思われる配慮をしました。そして、審査の経過と結果とを公開することになったのです。

審査の公正さを期すことが、最大の主眼であったことは言うまでもなく、審査委員会には緊張感がありました。後日、その方法は再度議論され、改革されて今日に至っていることを考えると、恥であったことの苦悩が偲ばれます。また講評は、学生諸君へ講評を投げかけるようにし、一方的な批評から往復書簡の可能性を求めたつもりです。

学生たちは時代の空気を鋭く嗅ぎ分ける能力に長け、この年早くもCGによる作品が現れたのは特筆できます。建築の作品表現の手段として、また大学における教育の一環として、製図の在りようが手で描く方法から機械製図へと、建築界は転換の最中でもありました。審査委員の間でもその可否について、意見が分かれたことも印象的です。

「手が虫食になる」と言い表した児童教育の専門家がいましたが、大学の建築教育にもその恐れ十分あり、と危惧する声。一方で、時代が求める最先端のツールを無視することは出来ない、とする声。各大学における作品にも、前者の千葉大、後者の日大海洋と東京理

科大と、その両面がはっきりと分かれています。面白いと思いました。難解なコンセプトや言語、表現は毎年好例です。それは若さが持つモチベーションであり、将来を期待させるものです。扱うテーマは多彩で、時代を反映するAIDS問題があり、ポストモダン風ありで感度のよさを実感します。また、例年必ず取り上げられる都市問題は、永遠のテーマかもしれません。

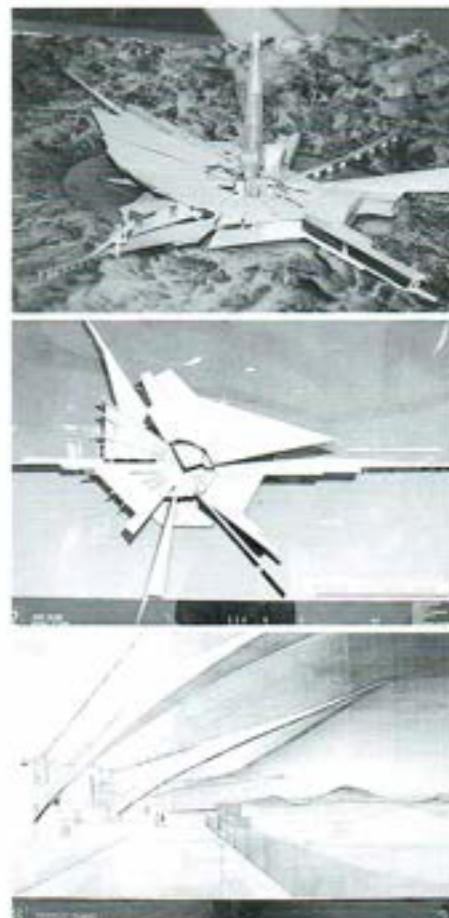
彼らが卒業設計に注いだエネルギーの大きさは、将来に計り知れない肥やしとなることでしょう。

(審査委員長：夏目勝也)

審査委員長 夏目勝也 (新日本建築家協会・千葉)
 委員 馬鹿紀男 (千葉県建築士会)
 委員 桑野 勝 (千葉県建築士会)
 委員 清水 信 (千葉県建築士会)
 委員 明智克夫 (千葉県建築設計・監理協会)

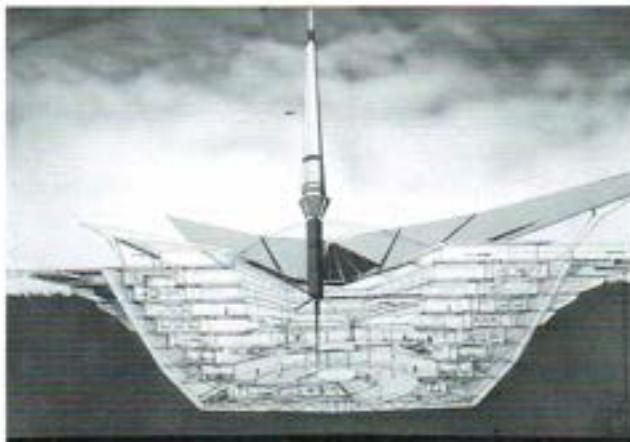
委員 岩田敏和 (千葉県建築設計監理協会)
 委員 田中修一 (千葉県建築設計監理協会)
 委員 佐山勝一 (新日本建築家協会・千葉)
 委員 藤本芳明 (新日本建築家協会・千葉)

金賞

●
THE GUEST HOUSE

▲卒業設計作品

片桐 岳志 日本大学 理工学部 海洋建築工学科



審査委員講評

地球上における人類の争いや公害問題、環境破壊への救済を、地球外文明との交信に求めようとする、近未来に十分実現可能な発想から生まれた作品。雪の結晶をモチーフにした六角形の造形は、海洋工学をはじめ宇宙、気象、建築のそれぞれを盛り込み、勉学の成果を示した好感の持てる労作。極寒の北極地を選んだことも、概念を際立たせる上で成功していると思われる。

片桐君の学ぶ海洋工学の求めるテーマが、常に海であり水であって、決してよそ見をしない頑なな姿勢は特筆に値する。建築の学生は往々にして器用であり、目移りする多彩な問題をあれこれこなしたくなるものだが、ひたすら絞り込んだテーマを相手の格闘が、強烈なコンセプトを生み出す源泉に違いないと思われる。ただ創出された建築空間にいざか人間味が欠けることを、審査委員の多くが語る。社会人となって、どのような懐の深さを持つようになるのか、期待するところ。

(審査委員長: 夏目勝也)



6th

応募作品一覧

特別賞	Selvas 热帯雨林保護のための提案	為国 清治	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	南伊豆フィールドパーク	筒井 寛平	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	PRESTIGE 教育空間のかたち	広瀬 正夫	千葉工業大学 工学部 建築学科
特別賞	COMPLEX PARK	道村 賢治	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	POINT ACCESS 山村共同体再構築計画	山崎 敏	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	現代の城	吉田 諭史	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	ART Village	船手 和芳	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	MEDIA BARN 都市環境同化型複合施設	宮川 昌巳	日本大学 生産工学部 建築工学科
金賞	GINZA GEO-WATER FRONT PROJECT	関谷 和則	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
銀賞	BAY CITY FORUM KOBE	吉田 幸正	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

卒業設計に限らず、学生たちが何を考え、何を表現するかは、実務者の私たちにとって、多くの示唆を含むものです。彼らは未熟であり、時には借りものの論理の範囲を脱離しない場合もありますが、中にきらりと光る才能を見出すことが出来ます。その場面に立ち会うことが出来る審査委員会は、至福の一時でもあります。多くの作品が難解で、消化不良に陥りながらも懸命に解を求めて彷徨するさま見るのは、審査する者にとっても極めて悩まされるところでもあります。

しかし、この年の作品群は比較的大上段に構える傾向ではなく、小振りでやや瘤こまった印象がありました。バブルがはじけた世相を反映しているのか、と審査委員会の声でした。

女子学生の作品に女性特有の気配があり、委員会はそれに出会えるのも楽しみの一つです。残念ながらこの年はエントリーがなく、一同をがっかりさせました。かつて審査委員たちが学んだころは建築の女子学生は数パーセントにすぎず、今日では大学によつてはその比率が男子学生を上回る現象まで見られ、不思議な世界を感じます。

CADやCGがさらに増えたことも特徴付けられ、時代の趨勢を、学生たちを通して肌で感ずることが出来ました。ただ、機械製作の面白さに惹かれて、肝心の建築計画の練り上げが疎かになることを、

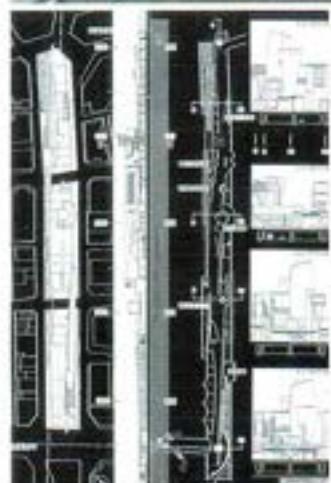
老兵は見逃すわけにはいきません。思考過程と制作のツールとの間で折り合いがつき、バランスの取れた扱いが手馴れてくれれば、強い武器となることは間違ひありません。今日それらが当然のこととして存在する状況を考えると、その萌芽の時期であったことを感慨深く思われます。

個々の作品に対峙すると、学生たちの真摯で、建築にかけるひたむきな情熱を正面から感じ取ることが出来ました。あたかも一人ひとりと面に会話をしている錯覚にもとらわれます。審査委員とはそのような役割を担って、重いと悉するシーズンでした。

(審査委員長：夏目勝也)

金賞

GINZA GEO-WATER FRONT PROJECT



▲草稿設計作品

関谷 和則 日本大学 理工学部 海洋建築工学科



コンセプト

戦後日本の経済性重視による都市基盤整備は、都市生活空間から幾つもの水辺を消失させ、水辺に息づいていた生活や文化、そして水が演出する心地よさを奪ってしまった。今日、都市生活における快適性が求められ、水辺空間の活用や再生が必要とされている。本計画は、高速道路となった築地川を例に、単に川の流れを再現するに止まらず、水辺が人々に与えていた精神面での利点と、かつて水辺空間が担った文化発信機能を蘇生することを目指している。

旧築地川の川底を通じる高速道路を埋め尽くす。水のスカイライトをトップライトとする立体的な水辺空間を創出し、地下プロムナード(地下鉄新富町駅-銀座駅間)を構築することによって、都市の「流れ」(情報・時代・文化・交通)を顕在化、積層させる。その流れに浮遊する様に「よどみ」となる都市機能(店舗・ギャラリー・地域文化施設など)を配置することにより、都市生活の核となる拠点再生・活性化が可能となる。

審査委員講評

自分たちの身近な都市問題をテーマとし、失われた水の魅力をもう一度再生して、人間性豊かな都市空間を創出しようというロマン溢れる計画である。

かつての美しいウォーターフロント、東銀座の文明を支えてきた築地川も、今では川底を首都高速が走る騒音と排気ガスを撒き散らすインフラと化してしまった。

その首都高速を埋め尽くす。水と人の関わりを再生した水面下のプロムナードを創り、そこに様々な文化的交流空間を提案している。ガラス天井を通して美しいせせらぎが流れ、地上には往時の都市景観の文脈であった橋や船をモチーフとした、緩やかにカーブするモニュメント風の建築が川面に映える。かつての東銀座の記憶装置として、人々の心に蘇る美しい空間構成である。新しい都市空間のあり方を追求した意欲的な作品で、創造性、表現力ともに優れた作品として高い評価を得た。

(審査委員: 明智克夫)

受賞者の現在



▲上: 代沢レジデンス 下: 美術館健康の森記念館

1996年竹中工務店に入社、現在東京本店にて設計業務を担当しています。学生時代、卒業設計や設計コンペを通じて、「建築を介して人々の生活をより豊かに幸せなものにするために、建築には何ができるのか、自分に何ができるか」と考えていました。実際に建築設計を行う立場になって、建築には将来の社会基盤に一部をつくるという責務と共に、私たちの生活中に「小さな幸せ」と「大きな社会変革」を創出する可能があると感じています。設計に携わることはとても楽しいことですが、無から有をつくり出すという迷路な仕事もあります。設計者の意図次第で建築の可能性が大きく左右される、厳しい世界です。多くの人々と作品を向き上げることに喜びを感じながら、「私たちの生活をより豊かなものにする建築」を意識した2作品を紹介します。

「代沢レジデンス」(東京建築賞2007・グッドデザイン賞2005他 受賞)は、世田谷の邸宅街に建つ個人住宅を賃貸集合住宅に置き換える計画です。近年の都市回帰に伴い、効率性や容積最大確保を主目的とする集合住宅が虫食い状態に都市に展開、街並みや都市の魅力を大きく左右する要因となっています。邸宅街代沢の街並みの魅力を分析、大谷石塀や通りに面する緑ある前庭空間を再構築することにより、「街並みの魅力の継承」と同時に、賃貸市場競争力の強化を実現しました。

「美術館健康の森 記念館」(BELCA賞・中部建築賞・グッドデザイン賞2006・北陸建築文化賞他 受賞)は、長野県駒ヶ根市の圧倒的な森に抱かれた美酒工場敷地内に移築された、かつての酒蔵を、美酒・生産文化を継承発展する場として再生した計画です。閉じた空間特性をもつ酒蔵と、生産という概念をもたらす広がりのある森を対照させる瞬間を建築によってつくり出し、来場者の森へと至る空間体験を介して、「人間と自然のインターフェースの創出」を目指しました。地元伊那谷地域の文化拠点としても浸透しつつあります。



7th

応募作品一覧

奨励賞	幕張メッセ・モール開発計画	金子 勉	千葉大学 工学部 建築学科
特別賞	高架再生	永丘 秀行	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	INTERNATIONAL PORT TERMINAL IN YOKOHAMA	及川 元弘	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	INCUBATOR INTEGRAL —汐留貨物駅跡地における都市機能対応型の都市公園用地構想—	辻川 球	千葉工業大学 工学部 建築学科
特別賞	テクノカルチャー・マトリックス（化学技術・芸術文化回路網）	馬場 弘勝	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	PHYSICAL TREMOR —身体の振動—	宮下 信顯	東京理科大学 理工学部 建築学科
銅賞	アナログ仕掛けのcommunity line	守谷 裕理	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	ニューヨーク42丁目クライスラービルディング周辺 地域複合再開発計画	松井 大輔	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	HELLO AFRICA 1994 —解放、そして交流へ—	戸國 義直	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
金賞	世界都市博覧会—お祭り広場 —水を利用した可変多目的イベントホールの提案—	清水 信友	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

製作テーマは、社会的背景を反映していることがよく分かります。バブルと言う名の好景気が去り、長期的な経済不況の中で円高・企業のリストラ・ドーナツ化現象が叫ばれていることは、大学にとつても無関係ではないからです。

このためか卒業設計としては比較的実践的な内容が増えているのもその影響と見ることができます。

- 都市の過密化とポテンシャルの集中化への反省
- 都市再開発・再構築の実践的挑戦
- ヒューマンな精神意識としての人間性回復
- 人と自然とにやさしい環境問題意識

各大学から選ばれた作品だけに、いずれも力作であり、これに投入した出展者諸君のエネルギーは審査員一同歎服するところです。ただ惜しむらくは、発想としての夢のダイナミズムにやや欠ける嫌いが見受けられること、学生らしい奔放さが影をひそめつつあることに多少の寂しさを感じます。

実務的・具体的な内容で作品をまとめようとしても、それには長い経験の積み重ねが必要なのであって、学生諸君に求められているのは、こうしたこととにとらわれない自由な発想にあるのだとの思いに返って頂きたい。

今回の作品に対して総括的な印象を大枠として整理すると次のよ

うになります。

- 建築の構造性に、次世代を意識した形の投影が見られない
 - 論理の展開に難解ともいえる文章表現を行うあまりに、作品への論理のフォローがなされていない
 - 再開発・新開発・実践への挑戦はよい。テーマはいずれも人や自然への優しさでありいたわりである。人間として最も大切な心を持ち続ける意識が感じられることは嬉しい
- 今年は全作品のすべてに甲乙付け難い内容で、充実していたことを付記します。

(審査委員長：田中修一)

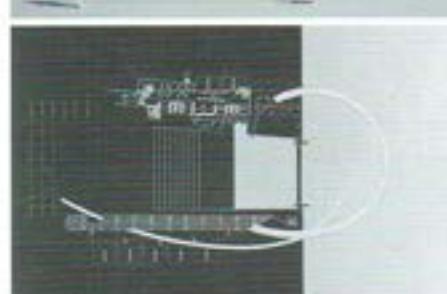
審査委員長 田中修一 (千葉県建築設計監理協会)
 委員 清水 信友 (千葉県建築士会)
 委員 石田文太郎 (千葉県建築士会)
 委員 村上一寧 (千葉県建築設計監理協会)

委員 仲沢和利 (千葉県建築士事務所協会)
 委員 横本正明 (千葉県建築士事務所協会)
 委員 夏目勝也 (新日本建築家協会・千葉)
 委員 岩崎哲朗 (新日本建築家協会・千葉)

金賞

世界都市博覧会—お祭り広場

～水を利用した可変多目的イベントホールの提案～



▲平素設計作品



清水 信友 日本大学 工学部 海洋建築工学科



コンセプト

今日、情報化社会の発達により多様にわたる情報の入手が可能となり、情報提供の場としてのエクスボジションの意味性が薄らぎつつある。しかし多くの人が人との触れ合いの温かさや交流・懇親といった臨場感を求めて、博覧会の開催に集まつて来るのである。そこで1996年に東京で開催される「世界都市博覧会」において、多様な交わりが可能な「触れ合い誘発空間」として、また出会いの場にふさわしい「水の都市公園」としての「お祭り広場」を提案する。

●水の織り成す「変容舞台」 潟の干満と水門による水位の調整により、陸面・水面・運河の3要素を組み合わせ、水を用いた変容舞台、客席演出といったイベント内容にふさわしい空間づくりが可能となる。

●「空中回廊」=交わり誘発帶 2本の空中回廊が三つの観客席を立体的に繋いでおり、1本は散策路、もう1本は立体的な公園としても機能する。この空中回廊と観客席に内包された舞台という一体感のある「触れ合い誘発空間」を創造する。

審査委員講評

進行中の東京開催のプロジェクト「世界都市博覧会」を卒業設計テーマ設定とするとは小気味よい。陸の広場、湖の干満、それに海そのものという三要素の組み合わせには若干こじつけ気味のところがあるが、数通りの演出効果を展開させているのは面白いし楽しい。

空中回廊リングで青天井を区切り、海を人間の視界領域内に絞り込み海上の人と絡ませている。街にある歩道橋のイメージを払拭させるようなデザインの空中回廊をスマートに創りたい。そしてモチーフの主役となっている海、人間はその水に際しては色、反射、動きに感動や親近感を、時には恐怖感を抱く、こんな水の吸引力を利用して五つのパターンの多次元的催しを生みお祭り広場の意外性を提供している。デザイン的にはコンセプトそれなりにまとまっているが観客席建築(図面上側)にもう一工夫欲しかった。環境創りに水の潜在的パワーを生かし建築デザインの楽しさを教えてくれる設計として評価したい。

(審査委員: 岩崎哲朗)

「世界都市博覧会」とは？ その当時は某都知事によって中止されるとは思ひもしませんでしたが、「具体的に何をするの？」という、ふとした疑問がこの作品を考案するきっかけでした。……都市問題を考え、未来の都市づくりを創造する？……ローマ帝国に始まる歴史的遺産を残し、運河と共に存している世界的水辺都市ヴェネツィア、そんな街が地盤沈下や地球温暖化による海面上昇等により、アドリア海に水没する危機にさらされている…これは大きな都市問題ではないか。また博覧会開催の東京も運河と共に発展してきた歴史があることから、「水辺と都市」いう点でヴェネツィアと共に通ずるものがあるのではないか。これらのことから、博覧会で予定されたマスタープランにおいて中心施設であった「お祭り広場」を、ヴェネツィアの問題を象徴する施設として考案したものでした。

この卒業設計は、今でも私に様々なことを思い起こさせてくれる良い思い出であり、また人生の中でいい経験を積ませてもらったと感謝もしています。それだけ特別な思い入れがあったので、上記のように設計の原点について長々と書かせて頂きました。

社会に出てからは4年間、都内の設計事務所で意匠設計を担当し、その後は地元で県職員として勤務し現在に至っています。そこでは官公庁業務や建築基準適合判定業務、住宅企画業務等を経験しており、この記念誌に掲載された方々とは少し違った角度から建築に携わっていますが、今でもかわらず建築雑誌を定期的に拝見しています。少なくとも自分の住まいは自分の作品として残せることを楽しみにして……。

最後に、この卒業設計から長い年月が過ぎたにも関わらず、このような場を与えてくださった関係者の方々、そして卒業設計作成にあたり当時、親身に指導してくださった先生方、昼夜問わず助言や手伝いをしてくださった研究室の先輩・同級生・後輩の方々に感謝いたします。



8th

応募作品一覧

奨励賞	京島サテライトオフィス	絵野 淳一	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	公園から公園へ	鈴木慎二郎	千葉大学 工学部 建築学科
銀賞	TOPO-AMBIGUITY ～自然メソ領域における交流施設の提案～	石田 美潮	千葉工業大学 工学部 建築学科
特別賞	南房総浪花地区再開発計画	遠藤 淳史	千葉工業大学 工学部 建築学科
特別賞	2095町家	高橋 啓	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	オペラハウス	露木 圭	東京理科大学 理工学部 建築学科
金賞	FICTION	横地 哲哉	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	colony for the creators	野口 智子	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	The Pirates of Caribu	浦野 唯一	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	THE SPRING MOUNTAIN ～ウカジオストックに接する“交流”ターミナル～	田中 厚三	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

国を重ねることに、内容の充実と新しい手法への挑戦が見られるることは嬉しいことです。ところで、好景気と豊富な資金を背景に、ポストモダンの名のもとに幾多の建築物が構築された時期が去って、安定成長という名の不況から未だ脱却できていません。こうした事情を反映してか今年も実践的な内容が多く見られました。

- ・自然保護と保全に対する人間的触れ合いを重視
- ・既存市街地の取り壊しではなく修正的再開発を模索
- ・個ではなく、社会と人間的な交流を求める集合体意識
- ・ヒューマニズムの内面的探求

景気の回復も間近になってきた様相を考えると、来年度は多少違った内容が出てくるのではないかとの予想を持ちます。これもまた美しいことです。今年度の作品に対する総括的印象を整理すると次のようになります。

- ・都市環境の中でヒューマニティの感覚は、内面的な単体の個よりも集団としての触れ合いこそが大切である。建築がもつ社会性がそこで活ける
- ・自然環境の保持の重要さと、人と自然との共生をどう捉えるか。学生としての具体的意見が現れている
- ・既存の都市やまちの問題点を指摘し、この解決手段として通り替えるのではなく造り直す方法論をとっている。現実を意識した修

正的変換に多少の限界を感じるが

- ・CG等を多用した作図能力が一段とアップした。ビジュアルな表現力に優れたものが多く見られる
- 学生諸君の卒業後の活躍に期待すると同時に、大学各位には来年度も優れた作品をご提出くださいよろしくお願いいたします。

(審査委員長: 田中厚三)

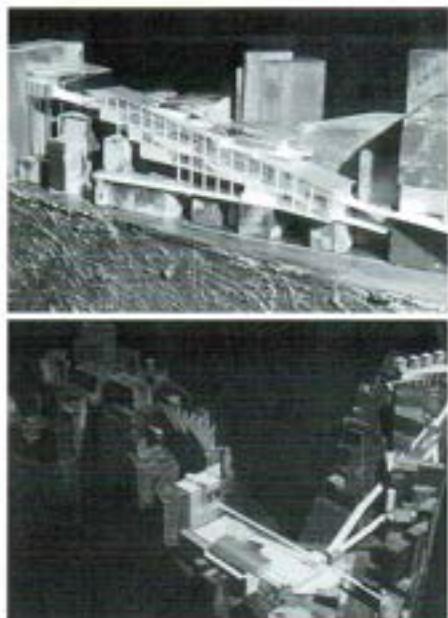
審査委員長 田中修一 (千葉県建築設計監理協会)
委員 幸野武夫 (千葉県建築士会)
委員 寺川典秀 (千葉県建築士会)
委員 村上一季 (千葉県建築設計監理協会)

委員 長谷川清次郎 (千葉県建築士事務所協会)
委員 中村良広 (千葉県建築士事務所協会)
委員 加倉井砂男 (新日本建築家協会・千葉)
委員 岩崎哲郎 (新日本建築家協会・千葉)

1996
平成8年

金賞

● FICTION



▲平賀設計作品

横地 哲哉 日本大学 生産工学部 建築工学科

コンセプト

場所は池袋。当時、映画・演劇の街を標榜していたこの街は、同時に歴史あるいくつかの映画館が閉鎖されるなど、少し暗い影を落としていました。また、池袋駅により東西に分断されているため、まとまりのない街の構成になっていたことを問題視していました。

今回の計画としては、既存の映画館、劇場をプロットしそれらの近辺の屋上に、あらゆる種類のパフォーマンスを表現する場としての様々な用途の建物を挿入していきます。東はサンシャインから駅を跨いで西は東京芸術劇場までを様々な新施設と既存映画館、劇場を空中歩道で結び、それらパフォーマンスと施設のシナジーによって街全体の発展・活性化に繋げることを目的とした都市計画です。

映画の主人公もパフォーマーも街を行く人も、すべてが渾然一体となったこの街は、あらゆる場所が舞台となり、池袋全部が虚構(FICTION)となる。

審査委員講評

高い評価のフォルムに内包された多くのアクティビティの断片集積は「何か」を生み出すことを美学とし、また、それらの記憶と誕生の繰り返し、更にはそれらの連鎖が相乗相加され未知数の価値と夢を生産していく……という浪漫のある壮大なプログラムであることが認められた。

既存建物を利用しながら水平デッキを挿入し街区再構成を図るあたりは、具象に抽象を挿入する絵画的な現実への方向性を示唆しているように直感でき、具現的機能や施設の説得性を從とし、むしろ豊かな表現力に裏づけされた美しいスカイラインのデザイン構成に徹するエネルギーが説得力を増したと思われる。

解を求めるためのデザインエレメントのカードが一枚づつ魅力的であり、それらを美しく構成し社会にプレゼンする能力は、極めて高い評価に値する。
(審査委員: 寺川典秀)

受賞者の現在



日本大学を卒業後、そのまま日本大学大学院に進学し98年に卒業。同年、ゼネコンの設計部に就職。現在も同社設計部に在籍しています。

現在の会社に就職してから丁度10年経過しましたが、その間に個人住宅、集合住宅、店舗、オフィス、学校、宿泊施設、神社とあらゆるビルディングタイプの設計をさせて頂きました。規模も数十m²から十数万m²まで幅広く経験してきました。今思えば、卒業設計で本当にやりたかったことは、場所とかテーマとか、ホントはそんなのどうでもよくって、いろいろな建物に挑戦したかっただけなのかも知れません。それがこの10年間でいろいろな種類の建物を経験してきたことに表れているような気がします。

近年では入手物件の大型化が進み、長期に渡る大型物件を兼ねしつつ、同時に小規模で自分のデザインを表現できる建物を少しずつ残していくています。本来であれば、現在進めている設計のいくつかを紹介できればと思いましたが、施主との守秘義務があるため割愛させていただきます。

その他には、社外活動として彭国社のディテールという雑誌に会社の仲間と連載をしています。著名な建築家の自身設計された設計事務所を訪問させて頂き、その建物のコンセプトを背景に、そこで使われているディテールの推測をします。また、それにまつわるエピソードなどを紹介しています。

9th

応募作品一覧

特別賞	HANGING IN THE BALANCE ～Tecno Art Museum In Makuhari～	坂 乳吾	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	Reconfirmation ～光の再確認～	橋 美紀	千葉大学 工学部 建築学科
金賞	新宿解放計画 オープン化された建築群によるまちづくり	中野 雅也	千葉工業大学 工学部 建築学科
銅賞	RINKAI PROJECTS	田中 万士	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	第3東京国際空港	重富 博之	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	Station With no complete form	岩間 航	東京理科大学 理工学部 建築学科
特別賞	遊戲聚（ヨーシーチィュー）～台南市運河沿いの街～	陳 雅林	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	新宿界隈計画 ～ONE MORE TIME TO LIVE～	中田 江利	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	「TOKYO JUNGLE」	小川 太士	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
銀賞	「Return to Nature」	中村 武晃	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

昨年来、景気はやや上向きと予想されていましたがその気配は全くなく、大学内でも卒業生の就職関係も平坦とはいかないところもありましょう。こうした世情を反映してか、卒業設計のテーマ設定にもその影響がうかがわれる所と考えたくなります。

今回を含め過去3年分のテーマを比較してみると、一昨年より昨年、昨年より今回のほうが……と、テーマの内容が徐々に小さくなっているようです。学生自身に追いたい夢が感じられるか、その夢の内容や程度、遊び的要素の有無、シチュエイションを何処に選択するか……等々、でスケール的に小さくなっているように思われます。

以上のようにテーマ設定に若干気になるところですが、作品はさすが選ばれてきているだけあって、今年もエネルギーな力作ばかり、審査にあたり心ときめく思いでした。

○経済効率を追い続け、現在の沈静化された状況に至るまでの経緯の中で失われてしまった文化、それを取り戻そうとの試みを提案した案。光の中に文化性を見つめ再認識をしようとか、音と歴史を組み合わせ新しい文化性を構築しようとか。それらの文化の拠点を建築の中に求めた提案には大変引きつけられた。

○何の活動もない既存施設群の地域や、かすかな吐息も聞こえてこない街並を再構築しようという計画は5作品にも及び、時代を見

つめる若者の視線は明確だ。

○駅がテーマの作品が3点とは。今、京都駅は関心の的となっているが駅ビル建設は特に珍しいことではない。街創りにおいて駅の担う役割を改めて見直すべきと考えたからであろう。駅自身を街並みの中へと参加させていくという提案が1作品あった。これから社会に飛び込んでいく学生が何をテーマに設定するか？社会の時代性を読み上げてヒントにもなる。卒業設計のテーマ選択からの審査講評としました。

（審査委員長：岩崎哲朗）

金賞

新宿解放計画

～オープン化された建築群によるまちづくり～



▲卒業設計作品

中野 雅也 千葉工業大学 工学部 建築学科

コンセプト

駅を境にまったく異なるスケールの都市が隣り合っている新宿の都市構造。都庁をはじめとする超高層ビルが連ち並ぶ新宿西口地区に対し、中小様々な建物がところ狭いとひしめき合う東口地区。閉鎖的な建物が隙間なく連ち並ぶこの東口地区は、周辺の著しい開発から完全に取り残され衰退化をたどる一方となっている。

この計画は新宿という高密度の都市に連續性をもたらすオーブンスペースを買入し、様々な流れを発生させその流れによって新しい都市の風景をつくりだそうというものである。歩行者レベルに買入されたオーブンスペースを緑樹された歩道、ポケットパークなどの外部空間と一体化することでオーブンスペースは絶えず外に向かって開かれ、ギャラリーなどパブリック性の強い通り抜け空間を挟み込むことによって、快適な歩行者空間が形成されることを意図した。

審査委員講評

「東京には空がないと言う」とは高村光太郎だが、高層街の路上で見上げる空は、はるか彼方にある。作者はヒューマンスケールの視点に立って空を近づけたいと願った。街路を人に開放すると同時に、建物は人を圧するのではなく、迎え入れるものであるとの理念に立って建築群の壁面構成に取り組む。こうした思いを新宿駅東口地区に夢を開拓した。緑化されたオーブンスペースの帯は駅前から新宿御苑まで流れ込む。西口エリアとの動線の結び付けとして、駅ホームをまたぐ一大ペデストリアンデッキまで造ってしまった。

経済効率優先で容積率を実施しようとする動きが急だが、人の心を尺度としたまちづくりはこうあるべきだと提案は、現実論としても傾聴に値する。建物のオーブンスペースの手法は巧みであり楽しい空間が随所に見られる。発想の表現方法が平明である。この分り易さを大切に、夢の実現に向って大いなる飛躍を願う。

(審査委員：田中修一)

受賞者の現在



▲上：近作・1：某企業研修センター 2003.4竣工
下：近作・2：取手の住宅 2006.12竣工
共にテネフェス計画研究所での担当物件 [撮影：瀬川 敏]

大学を卒業し、早いもので既に11年が経とうとしています。現在は、テネフェス計画研究所という設計事務所で建築の設計に携わっています。また昨年から千葉工業大学で非常勤講師として設計製図の授業をさせて頂いています。

【卒業設計】 卒業設計をしていた頃はまだパソコンを使っている人は珍しく、ほとんどの人がトレーシングペーパーにインキングを行い、大型コピー機を使って印刷していました。スクリーントーンやエアブラシを使ったり、カラーコピーを駆使して画面のプレゼンテーションや仕上げをしていました。僕はちょうど手描きとCADの移行期にいましたので、事務所でも最初はすべて手描きで図面を作成していました。いまでも手描きの作業が重要な役割をしており、とくに卒業設計での経験は今でもとても役に立っています。

【卒業後】 大学4年の春頃、進路についていろいろ悩んでいたとき、非常勤講師をされている野生司義光先生から事務所に説いて頂き、卒業後は野生司環境設計で3年間、建築設計の仕事に就き実務の基礎を学ばせて頂きました。その後、研究生として大学に戻り3年間を過ごした後、准教授の石原健也先生に声をかけて頂いて、石原先生の主宰されている現在の事務所で働く事になりました。今に至ります。

【現在】 ここ数年間、事務所では実務作業を行なながら、石原研究室のゼミ生への指導（アドバイス程度ですが）を行う機会も与えて頂き、卒業して10年以上が経ちますが、大学や学生と接する機会が多い環境で過ごしてきましたので、卒業設計の時期が来るときを思い出し、懐かしさと共に気持ちがワクワクします。

現在事務所では、住宅・保育園・宿泊施設・研修施設など様々な規模用途の建物を同時進行で設計しています。建築設計の仕事は様々な分野のクリエイティブな方との協同作業を通して刺激が多く、とてもやりがいのある仕事だと思います。





10th

応募作品一覧

銀賞	つきじ Live-Bazaar	森田 洋子	千葉大学 工学部 建築学科
特別賞	千葉駅一東千葉駅間活性化計画	浅井 晃	千葉大学 工学部 建築学科
特別賞	Re-Form	姫川 剛、大村 賢	千葉工業大学 工学部 建築学科
銅賞	京都・岡崎再開発計画 一絆と人と文化のネットワーク	山越 正浩、小山田 繁	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	MANZA TECNOLOGY PARK	江口 篤晃	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	S:新宿駅「上口」改造プロジェクト	山田 俊之	東京理科大学 理工学部 建築学科
金賞	re-start	坂原 昭彦	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	STANDING OPPOSITE	鹿又 一真	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	日蘭文化交流センター	市原 榮之	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	Shelterd edge -海岸空間の提案-	針生 康	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

昨年の総評の中で学生の取り上げる卒業設計のテーマ性に若々しさが減少しつつあるという懸念を記しましたが、今回も同様でした。これだけ鋭敏に沈黙化した世情を捉えていると考えると、ホットでくる一面寂しく残念な気持ちになります。これは社会に原因がある、即ち私たち大人の問題なのでしょう。さて、作品自体に関しては……

○リサイクル、リフレッシュ、環境汚染が、これから地球をさざえるキーワードの如くである。今回の作品の半分以上がテーマのコンセプトの中にこれらを設定しているのはうなずけるところです。

○街の中に点在しているいくつもの日本の歴史的な文化遺産はばらばらの状態である。街の中心にあたる地域を新たに地域開発し両者の連携を図り、より魅力のある町「京都」を夢みる作品、本当にかなえたい夢といつても良い。

○実際の行政の計画案をテーマの前提にしてしまう、そして単なる夢ではなくアリストリックな計画に挑む勇気はみたことがない。「川崎市」の再開発が対象。

○何よりも横列する路線の多い駅、そのうちの新宿駅のプラットホーム上部の残余空間の利用計画は具現性にはすこぶる嬉しいが建築的にはダイナミックであり楽しい。

○存続の危機にある莫地市場を楽しくおいしい体験の出来る空間で食の情報発信、交流の場に新生させるという、夢のある装置空間の計画は何か親しみあった。……等などというように全作品共さすがに若者らしい卒業設計に立ち向かうエネルギーが感じられ、いつもの感激を味わいました。この勢いを大切に社会に羽ばたいていってください。

(審査委員長: 岩崎哲郎)

審査委員長 田浦哲郎 (日本建築家協会・千葉)
委員 宇野武夫 (千葉県建築士会)
委員 寺川典秀 (千葉県建築士会)
委員 田中修一 (千葉県建築設計監理協会)

委員 明智克夫 (千葉県建築設計監理協会)
委員 桜原敬郎 (千葉県建築士会事務所百合会)
委員 横井 修 (日本建築家協会・千葉)

1998
平成10年

金賞

● Re-start



▲平面設計作品

塙原 昭彦 日本大学 生産工学部 建築工学科

コンセプト

川崎市浮島町、日本が高度経済成長を遂げた昭和中期から生活を豊かにするために生産を続けてきた京浜工業地帯に属している。広がる構造物は完全に装置を破壊し、人を寄せ付ける場所である。1997年12月の東京湾アクアライン開通により停滞していた時の流れが、また動き出したかのような様相を示す場所といえる。現在、この一帯に広がる工業プラントは、その役割を終えようとしている。

そこで今回の提案は、今後の工業プラントの移転による遊休地の増加や、川崎市の浮島ジャンクション等でのスポーツ施設・レクリエーション施設等開発構想を考慮した上で、川崎市浮島町一帯を起点とした京浜工業地帯全体の再起動(re-start)計画である。具体的には、そこには特に目的を持たない来訪者と、研究する人々、それを支援する投資家が同一空間に交わることによって、共同で新産業・新技术を生みだし、それを軸として臨海部再開発を模索する計画である。

審査委員講評

行政の計画の施設内容をそのままに採用するという計画は、ある意味では社会への直接的な挑戦。小気味よい。

リアリティーのある提案の方が考え方によると煮詰めやすいと思いがちであるが、社会的脈絡に対し作者なりのテーマの再設定は、緊張感をもって更に深く冷静に回答してゆく真摯な姿勢と高い知性に説得力をもつ。

本作品にあっては各エレメントを構成する絆縛に大変な密度を感じ、総合的なデザインとCGにも熱を入れたプレゼンテーションは群を抜いた魅力を備えている。

プログラム中、基本段階の解説力には緻密さが認められ、構成段階ではあえてダイナミックな表現を手立てとして用いており、コンセプチャルな作風から極めて高い感性と内在する想いの価値を育む作者の今後に大きな期待をもつ。

(審査委員: 寺川典秀)

受賞者の現在



▲上・下: 東急東横線元住吉駅

現在私は、東京の組織設計事務所に所属し意匠設計の仕事をしています。卒業した10年前は就職起業同期と言っていた時期で、数少ない求人募集に大勢の希望者が殺到したものでした。今はその頃より状況は改善され、だいぶチャンスが増えてきているのは事実でしょう。

学生の皆様がこれから進まれる我々の仕事に求められている人材を考えると、個人的にはデザインを創り出すという藝術家としての側面だけではなく、ある程度の構造・設備等の知識をもつ技術者としての側面、建築基準法をはじめとした法律家としての側面、口達者な営業マンとしての側面をバランスよく持ち合わせている人が最も求められているのではないかと最近思っております。もちろん建築が好きでないと務まりませんが、建築だけではなく広い視野を持つことも大切です。我々の教材は本の中にのみあるものではなく、生活する街に無限に存在しています。

最近竣工した物件ということで紹介させて頂くのは、ちょっと特殊な物件ですが駅舎です。近年の潮流でもあるサスティナブル建築を目指したものであり、太陽光発電システム・屋上緑化・壁面緑化・雨水利用などの技術をはじめとした環境配慮設計をはじめて本格的に駅舎に取り入れた物件です。竣工後、プロジェクトに全く関係のない駅利用者の率直な意見をその場に聞いて聞くことが出来たり、ブログに掲載された感想を見ることが出来るのはこの仕事ならではのことです。その点からも駅とはその地域の人々に暮らす人々の生活の一翼を担う施設(ほとんどの方が毎日2度通る)であり、最も重要な公共施設(実際にはそのような扱いではないのですが)の一つともいえると思えます。このような仕事に携われることができ非常に光栄です。苦悩の日々はありますが、この仕事をやっていてよかったです。



11th

応募作品一覧

特別賞	drop in ~水海道市街地商店街再興計画~	齊藤 淳彦	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	風景湯	山崎 能宏	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	歌舞伎町プロジェクト CULT(耕された)URE(ところ)の可能性	桑原 竜吾、山下 史	千葉工業大学 工学部 建築学科
銅賞	新木場再活性化計画 ~新たな記憶を刻み込むために~	川島 幸哲、栗太 研	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	nest in the city	大庭 哲哉	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	寺院建築における空間のスタディ	都祭 隆一郎	日本大学 生産工学部 建築工学科
特別賞	CONTRAST	松本 瑞樹	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	OPEN STUDIO ~環境アートを中心とした都市型美術館~	早川 淳也	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
金賞	YODOYABASHI EXPAND TERMINAL	大野 貴司	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

千葉県建築四会学生賞も重ねて11回となりました。建築設計界が千葉県の建築文化向上に貢献することを目的として、次代を担う設計者の教育機関である地元大学との交流を図り、各年度の優秀卒業設計に対する表彰制度を創設したのが1988年で、昨年記念すべき第10回千葉県建築四会学生賞を無事終了して一応の区切りとなりました。

反省会の席で大学側より公開審査の申し込みと、出展できる参加校の幅を広げて欲しい旨の要望がありました。検討した結果、公開審査に代わる方法として四会の紹介をするとともに、各審査委員の建築カタログ（プロフィール）を作成し、建築家としての活動を学生諸君や関係者に公開することにしました。

また、参加校を広げる件は次回（12回）に向けて現在検討中です。桜井座長・審査委員長共々新たな気持ちで20回に向けてさらに魅力ある学生賞にしていきたいと考えておりますので皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

今年は全体に世の中の雰囲気を反映してか、スケールも小さく現実的な作品が多いように感じました。一部上場会社の街並や、銀行、ゼネコン、設計事務所等大人の世界の元気がないことが少なからず学生諸君にも影響し、今回の卒業設計にも表れているように感じられ、学生らしい夢のある作品が少なく残念に思いました。

建築家は他の純粋な藝術などの分野と異なり、自分以外の人や社会からの求めにより初めて建築が可能となります。若いうちから誰にでもわかりやすい図面や文章の表現を身につけておきたいと思います。学生諸君の卒業後の活躍に期待をしたいと思います。

審査を経て各大学間での教育方針の違いや、目指すところの詳細な違いは解りませんでしたが、将来建築家を志す学生諸君の四年間の奮闘であり夢でもある卒業設計を楽しめてもらいたい、また若いエネルギーを十分に感じることができました。

（審査委員長：宇野武夫）

審査委員長 宇野武夫(千葉県建築士会)
委員 寺川貴秀(千葉県建築士会)
委員 田中修一(千葉県建築設計監理協会)
委員 横本雅夫(千葉県建築設計監理協会)

委員 宮崎輝祐(千葉県建築士事務所協会)
委員 斎藤博(千葉県建築士事務所協会)
委員 横井修(日本建築家協会・千葉)
委員 神田忠弘(日本建築家協会・千葉)

1999
平成11年

金賞

● YODOYABASHI EXPAND TERMINAL



▲平成設計作品

大野 貴司 日本大学 工学部 海洋建築工学科

コンセプト

関西国際空港をはじめとする活発な水辺空間の開発を背景とし、大阪・淀屋橋駅を舞台に水上交通網の整備と駅機能の再構築を目的としたプロジェクトを開発した。

大阪は運河を軸として発達してきた商業都市ではあるが、現在運河はその役割を終え、逆に都市を分断する存在となっている。この運河を新たな交通基盤として、水上交通網の開発を軸に、開かれた水辺空間のあり方を提言した。

駅はヒトやモノが集合し離散していく場であるとともに、地域の中心として、公共性の高い空間である。当時の駅空間はヒト・モノの流れを管理し続ける事で成り立っているように思えてならなかった。それでは、本来持つポテンシャルを生かしきれていない、と考えた。そこで大胆な仮説を立て、ヒト・モノの流れを水の流れに例えてみた。行動には「横」と「速」がある。その間に「溝」「淀」(滞留空間)が生まれる。利用者の多様性をとらえ、真の「駅空間」を誕生を試みた。

審査委員講評

水の都大阪の中に位置する中ノ島エリアを指定して、水上交通と他の交通機関とのあり方を見直し、総合的なターミナルを提案する。交通の基点は単なる運行手段としてだけではなく、人と人との交流の場であるべきだろう。この意図を、水の都にふさわしい情景で形作ることを意識したい。大野君はそう考えた。

水面のゆらぎと対比するため、計画する空間をテント状の幕で覆うことにした。揺れ動く波動のやすらぎの中にすべてが包括されている。人も建築も水も、都市の隙間の小スペースに、見事な広がりを印象付けることに成功している。可愛いカフェテリアも楽しい空間である。水のギャラリー、中ノ島公園に架かる透明感の高いペデストリアンブリッジ、淀みや溝の空間に時間と速度のファクターを加味するなど、技術的にも感性の高い仕掛けを巧みに組み込んだビューマニティーに溢れた溌々しい作品である。

(審査委員・田中修一)

受賞者の現在



▲上：EEO、下：FNHプロジェクト

一昨年まで勤務した(株)プランティック総合計画事務所では、主に日産自動車デザインセンター・PIF(プロジェクト・イマジネーション・ファクトリー)の設計・監理に従事し、床面積50,000m²、全長300mにおよぶ広大な建築を完成させるまでに4年を費やしました。このプロジェクトは建築のリニューアルにとどまらず、日産のカーデザインのプロセスに大きな変革をもたらす提案をいくつも実現しました。そういった意味で大変貴重な経験をしましたし、いまその施設で生まれたデザインが世に出て行く姿を見るにつけ感慨深く思います。

現在は、(株)都市デザインシステムに籍を移し、今まで培ったデザイン力とプロジェクト推進力を活かし、都市や建築をプロデュースする仕事に就いています。

会社はコーポラティブハウスを基幹事業として設立した企業で、デザインホテルの先駆けであるCLASKAや、昨年話題となったキッザニア東京など様々な分野の開発を行っています。私の所属しているサステナブル開発事業部は、環境問題や社会問題に対して積極的に取り組み、環境・社会の改善と都市開発や経済活動を両立させることを目的とした組織です。発足して間もない部署ですが、様々なプロジェクトが進行中です。私は主に環境配慮型の建築開発を担当しています。集合住宅のFNHプロジェクトでは壁面緑化、ファサードエンジニアリング、リサイクル素材適用などを行っています。オフィスのEEOプロジェクトでは太陽光発電、屋上緑化、中水利用、エコ・ポード(発展型Wスキン)などを採用しています。いずれのプロジェクトでも心掛けているのはインテグレーションというキーワードです。環境技術と、人間の感じる快適性、美しいデザインを統合していく点です。

今日、「環境」という言葉を聞かない日はないほど問題は紧迫しています。私は自分の子供の世代のために今出来る事を考えて、それを仕事にしていける事に喜びと責任を感じて日々働いています。



12th

応募作品一覧

金賞	セトモノメモリアル ~陶都瀬戸市における三番目の記念碑~	北原 祥三	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	下町地域構造再生	大田 智之	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	死の復讐 The Restoration of DEATE	齊藤 大介	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	川の記憶 ~A memory of river~	前 和光	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	link	小畠 光司	東京理科大学 理工学部 建築学科
特別賞	Infiltration ~21世紀の横田空港~	村尾 光宏	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	「→00 PROJECT -UNTITLED-」	田村 裕希	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	FACES	佐野 聰彦	日本大学 生産工学部 建築工学科
銀賞	船橋漁港蘇生計画	寺田 健	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
特別賞	「SHIMANAMI COLLEGE」 ~瀬戸内諸島における新たな交流学習施設の提案~	江橋 亜希子	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

都市の再生・歴史と文化・港や空港等をテーマとした作品が見られ、世纪末で大きな変革期の社会情勢が敏感に学校内にも入り込んでいるのだと感じた。

1次審査は11時より津田沼サンベックのセンターモールでの公開審査です。展示された作品パネルと模型の前で15分の時間を与えられた学生が熱のこもったプレゼンテーションを行い、審査員共々初めての試みであり心地よい緊張感の中で終了。各作品とも学内で選ばれた優秀な作品でどの作品が金賞に選ばれてもおかしくない。学生の説明中に熱心に聞いていた市民から学生に応援の声がかかる場所があり審査員を悩ませた。

1次審査の結果高得点を得たC、D、Iの3作品、次に評価の高いJ、Hの上位5作品と10点評価のあるEの6作品が2次審査に。

2次審査では、Iの「セトモノメモリアル」が歴史的な時間軸の中で探査場自体を展示空間として市民に開放し、探査終了後はエメラルドグリーンの湖上に浮かぶメモリアルとする作者の見事な計画に審査員一同の票が集まり金賞に決定。

銀賞はCの「船橋漁港蘇生計画」、銅賞はDの「FACES」この2作品は審査員の高い評価を受けた。Jの「SHIMANAMI COLLEGE」、Hの「Infiltration~21世紀の横田空港」の2作品が特別賞に選ばれ、他の5作品は奨励賞が決定した。各賞が決

定した時点で事務局より大学名と個人名が発表された。

オブザーバー参加の日大理工学部交通土木科デザイン研究室の作品は、建築と土木が境を越えて相互に関わり総合的な都市環境としての視点をもつことの大切さを感じさせた。次回から開口を広げ多くの学生諸君の新鮮な提案を楽しみにしたい。

高校生の作品は、住宅、歴史的建造物の実測、模型等で高校3年間の短時間によく学習をしていると感心。しっかりと勉強をして新しい時代を切り開く人材に成長されることを望みます。

(審査委員長:宇野武夫)

審査委員長 宇野武夫（千葉県建築士会）
委員 寺川英男（千葉県建築士会）
委員 田中修一（千葉県建築設計監理協会）
委員 佐竹良道（千葉県建築設計監理協会）

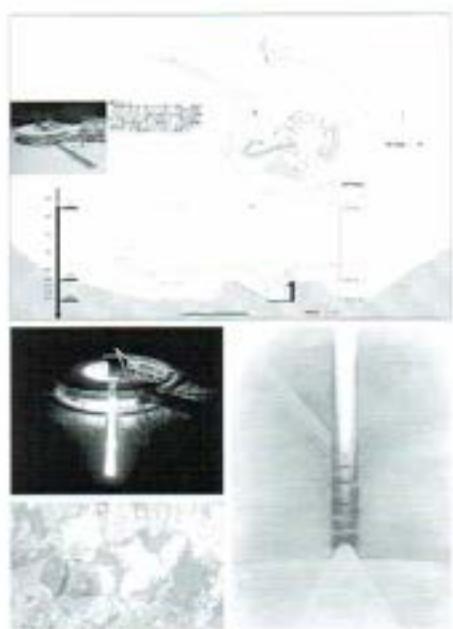
委員 長谷川清次郎（千葉県建築士事務所協会）
委員 高木春一（千葉県建築士事務所協会）
委員 稲田忠弘（日本建築家協会・千葉）
委員 吉井輝雄（日本建築家協会・千葉）

2000
平成12年

金賞

セトモノメモリアル

～瀬戸市における三番目の記念碑～



▲草案設計作品

北原 祥三 千葉大学 工学部 建築学科

「セトモノ」とは 愛知県瀬戸市は明治以降の近代産業発展を経て、多種多様なやきものを全国各地に大量に供給し続けた。いつしかやきもの全般を称して、「セトモノ」と呼ばれるようになった。



コンセプト

瀬戸市の近代産業発展を支えてきた陶土採掘場は、中心市街地に隣接しているにも関わらず、瀬戸市民からは隔離された空間として存在している。この圧倒的な景観を有する採掘場は、20世紀における瀬戸市の歴史を見続けてきた場所であり、最も象徴的なものであるといつよい。一千年以上ものやきものの歴史をもつ瀬戸市では、二つの重要なターニングポイント（陶器・磁器の技術革新）を記念して、二人の人物をそれぞれ陶祖・磁祖として奉っている。ここでは、この一世紀の間に大きな発展を見せた「セトモノ」を瀬戸市にとって重要な三つのターニングポイントと考え、それをシンボル化するものとして、採掘場を保存していくものとする。

審査委員講評

この作品は、「セトモノ」で知られる瀬戸市の陶土採掘場を展示空間として開放し、瀬戸市の歴史の重みを体感させるというもので、展示の主体は、現在も採掘の続いている採掘場そのものである。審査委員に大きく感銘を与えたのは計画のしつらえの素晴らしい。

展望塔はかつて採掘場が山であった頃の山頂に展望塔の最上部を合わせる事により、その空間量と時間量を感じさせる。さらに展望塔はブリッジを渡り、展示施設の地下30mに降り立った時に初めて壁のスリットからその全容が現れられ、壮大な歴史を認識させる。そしていつの日か採掘が終了した時には、歴史の区切りとして採掘跡に水を張り湖として市民の憩いの場に生まれ変わる。その時、湖上のブリッジと展望台の景色は一変する。

コンセプトの明快さ、発想の素晴らしいは、作者の鋭い感性を感じさせ、時間と共に変化していくさまにドラマを感じさせる素晴らしい作品である。
(審査委員：佐竹良道)

受賞者の現在



▲島田病院新棟2期／上左：待合室、上右：外観、下：展望テラス
[撮影]（株）エヌエス東京
▶右：島田病院新棟3期模型

私は大学院を卒業後、(株)竹中工務店に入社、1年間の開拓研修を経て設計部に配属された。ここでは、私が初めて設計を担当した病院の増築工事で現在も次の増築計画を継続中の病院施設を紹介したい。学生時代にはまさか自分が医療施設の設計に携わると予想もしていなかった。最初は自分に医療施設が出来るのかという不安はあったが、少しの専門用語に、根気を要する打合せさえ慣れてしまえば、病院は人が住む場でもあり、地域に根ざす立派な公共空間でもあり、建築として純粋に興味をもって取り組めるようになった。

この病院は千葉県銚子市にあり、眼前には利根川河口と太平洋を望む素晴らしいロケーションに恵まれている。最初に担当した増築棟は当社としては2期目の新規計画（主な既存施設は他社設計）で、200床のうち約70床の病棟と外来スペースの拡張、手術部門の充実など、病院の今後の発展にとって重要な位置付けであった。「風景のある病院」をテーマに美しいプロポーションを追及した大きなボックスによるファサード構成、最上階には鏡面で最も良い景色を楽しめる展望台・テラスの計画に力を注いた。

現在は新規第3期工事として、健診施設の充実を図る増築計画を行っており、この春には着工する予定である。この棟は2期棟とは条件が異なり、狭小な道路に面した位置に計画される。ここではすぐ前面の住宅街に対し、階層の大きい病院スケールの圧迫感を低減させ、いかに快適な路地空間が創出出来るかをテーマに、円弧状の壁面にランダムに開口を持つことで、面を分断しながら、通りに豊かな表情を与える試みをしている。人間ドック施設として斬新な病院イメージの発信と、地域に溶け込むワンシーンが創出されることを期待し、実施段階での更なる創り込みに邁進したい。今後も学生時代に建築に込めた夢は忘れずにもち続ける。設計の仕事に取り組んでいきたいと思う。





13th

応募作品一覧

銅賞	筑波開拓宣言	安藤 功	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	I/O STREAM ～手取川ケーブルネット～	北野 信吾	千葉大学 工学部 建築学科
奨励賞	Re-	平光 優徳	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	InterACT	古泉 和宏	千葉工業大学 工学部 建築学科
銀賞	Shift	赤池 高幸	東京理科大学 理工学部 建築学科
銀賞	Shibuya kaleidoscope	村松 雄寛	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	海都/波紋	大野 猪史	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	REFUGE PACK	郷 利宣	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	Urban Kitchen	原 香菜子	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	TOKYO BAY TORIPORT STATION	渡邊 昌也	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
銅賞	羽田国際空港とマルチモーダルネットワーク構想	網木 俊博	日本大学 理工学部 交通土木工学科
奨励賞	川崎・セントラルステーション構想	中林 薫	日本大学 理工学部 交通土木工学科
金賞	Crematorium on the sea	真岩 拓郎	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	GATE	開口 加奈子	東京電機大学 工学部 建築学科

総評

今回より、新たに日本大学工学部交通土木工学科と東京電機大学工学部建築学科が参加されることになり、この学生賞がさらに充実し、巾の広がりをもつことになりました。

審査方法は、我々の活動を広く市民の方々に知っていただくため、また、審査の公平性・透明性を示すため、展示場である津田沼サンベデック1階センターモールにおいて、初の公開審査としました。

学生が自作の作品の前で作品説明を行ないましたが、通りがかりの市民も含めて小さい人達が出来、説明する学生も審査員もいささかの緊張感の中で行なわれました。

一次審査の結果、まず合計得点の上位から5作品及び5点評価を得た作品を選びました。その結果A (Shibuya Kaleidoscope)、B (Shift)、D (筑波開拓宣言)、F (GATE)、I (川崎・セントラルステーション構想)、K (羽田国際空港とマルチモーダルネットワーク構想)、M (Crematorium on the sea) の7点が選ばれました。そして全作品に対して、各審査員の評価の意見交換を行い、二次審査に入りました。

その結果、M (真岩君) が、迷惑施設といわれる葬祭場を重要な都市施設としてとらえた提案に、各審査員から高い評価が与えられて、金賞に選ばれました。

ついでA (村松君) とB(赤池君)が銀賞に、D(安藤君)とK (網木君)が奨励賞に選ばれ、他の9作品が奨励賞に選ばれました。

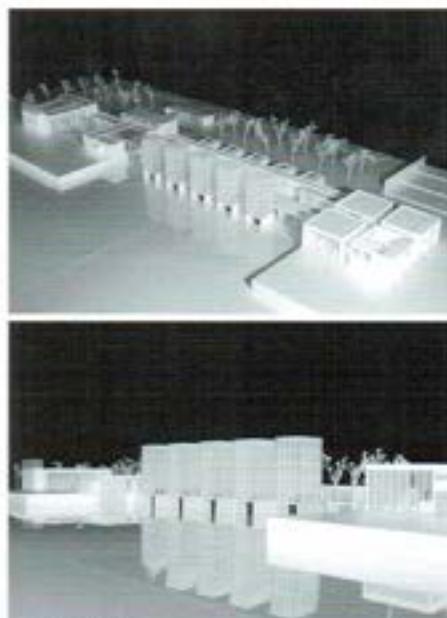
建築とは何ぞやと問い合わせてくる作品もあり、審査員の評価の分かれの作品もあり、審査の過程では大いに審査員の頭を悩ませました。

今年の作品は若いエネルギーが十分に伝わってくる大作が多く、作品の質に於いても、プレゼンテーションの方法などに於いても、今回はまた一步全体の作品がレベルアップしたように思いました。

(審査委員長：佐竹良造)

金賞

Crematorium on the sea



真岩 拓郎 東京電機大学 工学部 建築学科

コンセプト

都市の中で、人間の最後を送る葬祭場はしばしば迷惑施設として扱われ、日常から切り離される形で計画されてきた。その結果、人の死は隠蔽され、リアリティを失いつつある。また、従来の葬祭場では、そのシステムは形骸化し、葬送空間としてのあり方も問いかねなければならない。

東京の中でも、埋め立てによって造られた河岸地域は極度に計画的な都市である。河岸地域では急速に開発が進み、多くの人が暮らし始めている。すべてが人为的に造られたこの地域では自然とのつながりは薄れ、リアリティのない希薄な風景が展開している。

このプロジェクトは河岸地域を対象とした葬祭場の提案である。葬祭場を重要な都市施設として捉え直し、日常から隔離することなく都市に配置することで、低下しつつある死への意識やリアリティを取り戻すこと。人間の尊厳ある死を葬儀に見つめ直す空間を創出すること。これらがプロジェクトを進める上での大きなテーマであった。

審査委員講評

人工的エリアで時間に追われながら気ぜわしく行き来する人々に、水辺に現れる葬送空間の問いかけは、魂の何かを呼び覚ます意義を内包しているように思える。

本来、極めて重要な施設であり必要を過剰で認めながら意識下で隔離している誤認の陰イメージを、1982年[八木澤社一論文発表]以降、未だ真っ直ぐ向き合うことを講じる社会に対し、現代の機運であるが故にあらためて本質的な提言をしたものと理解している。

導入から一連の告別所作における場として、相応しい設えは華美でない心理的密度の高いデザインが要求される。作者は昇華し自然に得る葬法の一つのエレメントとして水を換ることとし、また、細部に行き渡るさりげない配慮と優れた構成力に裏付けられた作品性は想う役割以上のものを備え、学術を基盤とした上で静かなメッセージを美しいフォルムに翻訳する力量は、揺らぐ反射光の輝きをもつ程で高い評価に値するものと言える。

(審査委員: 寺川典秀)

受賞者の現在



▲東京港区の賃貸共同住宅

大学卒業後、同大学大学院へと進み、現在はアトリエ設計事務所にてチーフアーキテクトとして設計活動を続けています。学生時代に抱いていた建築に対する情熱は今も変わらずもじ続け、将来の独立に向けて研鑽の毎日です。

学生時代とは違い、実社会における設計活動は設計条件が多く、なによりも経済活動と深く結び付いており、投資や資産の対象としての価値が求められます。また、建築基準法を始めとする様々な法規制限、役所・近隣住民との折衝など、設計者としてより多角的な視点を求められるようになりました。そういう状況の中で、常に新しい発想をもち、時代の流行に左右されない本質的な意味での空間の提案を目指しています。将来の社会の良質なストックとなる建築空間の創出こそが、これからサステナブルな社会において、建築の果たすべき役割であると考えています。

簡単ですが、最近竣工した作品を紹介させていただきます。写真は、東京都港区南麻布に計画した地下1階・地上10階建ての賃貸共同住宅です。ここではSOHOとしての需要を見込み、フレキシビリティの高いワンルーム空間を基本として計画しました。通常の住居としての使用に対しては、可動間仕切および吹抜けや階段を用いた層による分節によって対応しています。全住居共通の提案として、一箇当りの良い道路側にガラス張りの水廻り空間を配置し、住居全体に風と光が通る開放的な住空間としました。また、1階にはガレージ付き住居、屋上には東京の夜景を満喫できるテラス付き住居を設けるなど、周辺の環境に呼応した住居形式の提案を行っています。これとは別に、シェアリングに対応した3層メソネット住居など、新しい生活形態に対する提案も行っています。現在高層ということで、提案に対する実績の積み重ねが次の設計への励みと自信になっています。



14th

応募作品一覧

銅賞	界面活性 surface active agent	花里 真道	千葉大学 工学部 デザイン工学科
奨励賞	[WORK]	小林 大祐	千葉大学 工学部 デザイン工学科
銀賞	空港都市におけるショーケースに関する提案	田口 千晶	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	多駆都市／多駆図書館	小林 康太郎	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	NEW SKYSCRAPER MODEL	森下 貴正	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	interruptActed sheet	岡本 健	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	FARM SCAPE	佐々木 達郎	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
奨励賞	関東財務局アパート再生計画	米田 周平	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
奨励賞	2002 : a Tokyo bay odyssey	渡辺 哲夫	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	renaissance of drama	清水 秀樹	東京理科大学 理工学部 建築学科
金賞	地域のcontextを再編するためのHarbor Complex	不破 徹	日本大学 生産工学部 建築工学科
銅賞	ライステラスハウジング	西牧 厚子	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	THE THIRD BOSPHORUS BRIDGE PROJECT	秦野 浩司	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	TOTENSTADT	木村 雄之	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	TOKYO ビッグステップ	大沼 邦俊	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	福岡マルチモーダル構想	田島 敏悟	日本大学 理工学部 社会交通工学科
銀賞	国立 戦没者と出会う場	佐々木 里紗	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	LUMINE3	前谷 英如	東京電機大学 工学部 建築学科

総評

今回は新たに千葉大学工学部都市環境システム学科と千葉工業大学工学部でデザイン学科が参加され、18作品の中から審査をすることになりました。

審査は、3月1日（金曜日）午前10時から、昨年に続き津田沼サンベテックセンターモールにおいて、一般市民を前にして公開審査が行なわれました。

一次審査で10作品を選び、次に審査員間で各作品に対する意見交換を行い、二次審査に進み、再度審査員の採点が行なわれました。

その結果、18番（不破君）が33得点で金賞、僅差で11番（田口さん）が27得点で銀賞、ついで4番（佐々木さん）が18得点で銀賞、銅賞には2番（西牧さん）13得点と、17番（花里君）6得点が選ばれ、他の13作品は奨励賞に選ばれました。

今年の作品の特徴は、現実的なテーマを扱ったものが多く、まとまりのある作品が多かったように思いました。金賞を受賞した不破君の作品は、静岡県清水市の再生計画で、緻密に練り上げられたコンセプトの上に立った見事な美しいフォルムの作品でありましたし、惜しくも銀賞となつた田口さんの作品は、中部国際空港に常滑市の開発計画をリンクさせ常滑市特有のランドスケープの提案に多くの

点数が集まりました。戦没者の参拝についての提案をした佐々木さんの作品も審査員の共感を呼びました。

また、今年はエントリーした女性3名全員が入賞し、2名が銀賞を、1名が銅賞を獲得されたことは、快挙と言うべきでありました。惜しくも入賞を果たされなかった作品も、高いレベルのものばかりでした。

学生諸君はもうすぐ社会人となられるわけですが、千葉県四会学生賞に出展したことを誇りに思って、今後それぞれの場所でご活躍いただければ幸いと思います。

（審査委員長：佐竹良道）

審査委員長 佐竹良造（千葉県建築設計監理協会）
委員 寺川清秀（千葉県建築士会）
委員 大岩義充（千葉県建築士会）
委員 福山健治（千葉県建築設計監理協会）

委員 加藤文男（日本建築家協会・千葉）
委員 古月輝昭（日本建築家協会・千葉）
委員 萩原重雄（千葉県建築士事務所協会）
委員 須川安雄（千葉県建築士事務所協会）

2002
平成14年

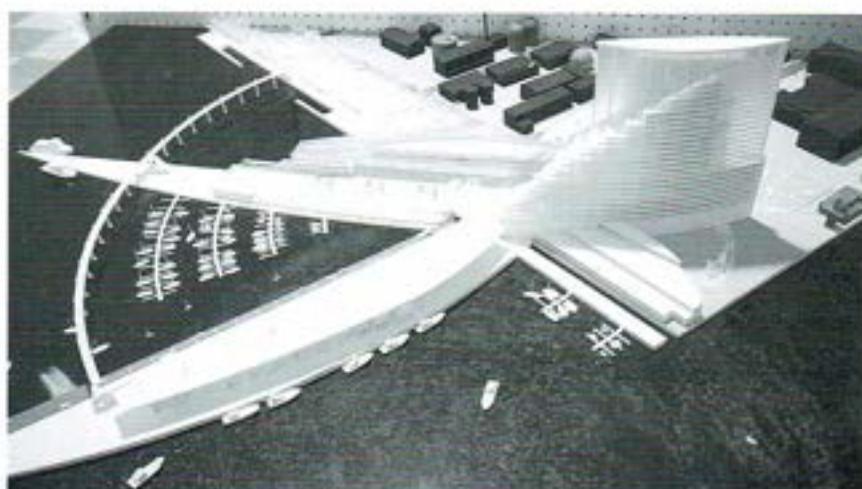
金賞

不破 徹 日本大学 生産工学部 建築工学科

● 地域のcontextを再編するための Harbor Complex



▲草案設計作品



審査委員講評

経済的に地盤沈下を起こしている清水市を再生する計画である。この計画は、交通・産業・人の生活の観点の上に立って計画されており、現市街地と、対岸の羽衣伝説で有名な三保半島の一角に人の集まる新しい施設を提案し、半島と現市街地とを新たにアクセス道路でつなぐことで人の流れと物の流れをつくり、人口を張り付かせる計画である。活性化のために道路と物だけをつくって失敗する例はよく聞くことだが、不破君は交通・産業等の観点からだけでなく、住民の意識から変える事が最も大切であると説いており、全く同感である。施設群は海との関わりをもたせ、魅力的で夢のある空間である。

ホテル、ショッピングセンター、魚市場等、海に向かって開かれた施設群の大膽かつのびやかで自由なデザインは素晴らしい。作者の感性の高さを感じる。しっかりしたコンセプトの上に立った、完成度の高い作品である。

(審査委員：佐竹良造)

15th

応募作品一覧

優秀賞	学校開放	鈴木 啓	千葉大学 工学部 デザイン工学科
奨励賞	Marunouchi Complex	鈴木 洋子	千葉大学 工学部 デザイン工学科
優秀賞	地域の価値を高める再開発	宇都宮 杏子、西村 麻智子	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	記憶の森 ～過去と人々と暮らす街～	外山 明里	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	Fitness Freak _sports complex-	大崎 利則	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	Aqualine Motordrive Architecture	三島 裕子	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	都市の食卓	中村 文子	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
奨励賞	家族が永く住み続ける家	小野 晃吾	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
優秀賞	TOKYO LIBRARY	中西 恵	東京理科大学 理工学部 建築学科
特別賞	Unstable	今井 圭	東京理科大学 理工学部 建築学科
優秀賞	東京スタイル	川井 慎一郎	日本大学 生産工学部 建築工学科
特別賞	ウミノパズル	金子 純子	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	三番瀬境活動拠点の設計	栗田 耕史	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	いわふね斎場の設計	長坂 悠司	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	市谷マルチモーダルステーション構想	中嶋 崇	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	秋葉原未来型都市構想	萩原 麻衣子	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	乾いたウラ	奥澤 健	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	Recycling Factory Void Playzone	菅原 潤治	東京電機大学 工学部 建築学科

総評

第15回 千葉県建築四会学生賞は、全9学科18作品がエントリーしプレゼンテーション、一次審査、二次審査という延べ9時間30分の全審査工程を執り行ないましたが、評価に専念した審査の結果、最優秀賞の選定に至らずという異例の結論となりました。

それは、均衡ゆえ甲乙付け難いという単純な理由ではなく、各大学各科内からノミネートされた全作品には高い品位と同時に、多種多様な属性【具体的にはプロダクト・インテリアデザイン系から開発・都市計画系まで】が存在し、カテゴリーやプライオリティーの意味性を一年の時間を費やし論議を尽くした経緯があり、今年度から新たに特別賞を設けたのも拘わらず、一元的な評価の集束には至らなかつたというものです。

但し、今年度作品の総体的評価としては、社会へ応答する建築の立ち居振舞いを独創性と妥当性をもって投影したと解釈しており、奨励賞が該当12作品全作に与えられた事実こそ持継すべき高品位を示した年度と判断することが出来るでしょう。

(審査委員長：寺川典秀)

審査委員長 寺川典秀（日本建築学会・千葉支所）
委員 宇野武夫（千葉県建築士会）
委員 森田敬介（千葉県建築士会）
委員 堀山健治（千葉県建築家協会）

委員 加藤文男（千葉県建築家協会）
委員 松原幸雄（千葉県建築士事務所協会）
委員 長川安堵（千葉県建築士事務所協会）
委員 家代けい子（日本建築学会・千葉支所）

2003
平成15年

最優秀賞 該当者なし

優秀賞：「学校開放」

鈴木 啓 千葉大学 工学部 デザイン工学科

優秀賞：「地域の価値を高める再開発」

宇都宮杏子／西村磨智子 千葉大学 工学部 都市環境システム学科

優秀賞：「TOKYO LIBRARY」

中西 優 東京理科大学 理工学部 建築学科

優秀賞：「東京スタイル」

川井 慎一郎 日本大学 生理工学部 建築工学科

審査委員長総評

第15回 千葉県建築四会学生賞は、全9学科18作品がエントリーしプレゼンテーション、一次審査、二次審査という延べ9時間30分の全審査工程を執り行ないましたが、評価に同心した審査の結果、最優秀賞の選定に至らずという異例の結果となりました。

それは、均衡故甲乙付け難いという単純な理由ではなく、各大学各科内からノミネートされた全作品には高い品位と同時に、多種多様な属性【具体的にはプロダクト・インテリアデザイン系から開発・都市計画系まで】が存在し、カテゴリーやプライオリティーの意味性を一年の時間を費やし論議を尽くした経緯があり、今年度から新たに特別賞を設けたのにも拘わらず、一元的な評価の集束には至らなかったというものです。

ただし、今年度作品の総体的評価としては、社会へ応答する建築の立ち居振舞いを独創性と妥当性をもって投影したと解釈しており、奨励賞が該当12作品全作に与えられた事実こそ特筆すべき高品位を示した年度と判断することができるでしょう。

(審査委員長：寺川典秀)



16th

応募作品一覧

最優秀賞	Kid's Camp	TEOH CHEE SIANG	千葉大学 工学部 デザイン工学科
優秀賞	Kyo-Kai=KIKKAKE (キョーカイ・ハイ・キッカケ)	大黒 優平	千葉大学 工学部 デザイン工学科
奨励賞	集める・育てる・発信する	グループ・とよすぐみ (武田桃子、他4名)	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	node	戸田 和典	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	Art&Agriculture	渡部 純也	千葉工業大学 工学部 建築学科
優秀賞	都市の象徴から歴史のシルエットへ	一色 博貴	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	都心×子供の居場所	平 聰子	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
奨励賞	舟屋都市『パンズ』	小谷 晴子	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
特別賞	OVER SIZE BUILDING	南 慶允	東京理科大学 理工学部 建築学科
優秀賞	SPASE FRAMING	青木 英祐	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	土地のちから 建築のちから	齊藤 菊樹	日本大学 生産工学部 建築工学科
特別賞	ウバシ・コロ・チセ	武田 有紀	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	Irkutsk Flex-lab	白砂 孝洋	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	MM21 中低層高密度集合住宅	川崎 未来生	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	細島水都再生構想	石井 紀央	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	隅田川運河駅構想	稻葉 修	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	campus	上島 雅子、長谷川 千純	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	人の集まる港 ～清水港中心化計画～	筑城 浩介	東京電機大学 工学部 建築学科

総評

第16回を迎えた千葉県建築四会学生審査会は、平成16年3月5日10:00一般市民を前に公開プレゼンテーションから、一次、二次審査、更に相互意見交換の上、最終協議を重ね各賞を決定しました。また、審査終了会議において(社)日本建築家協会主催「全国卒業設計コンクール」千葉代表3推薦作を選定し、全審査工程を終了致しました。

展示会場を見渡し、本年度ノミネート作品の多くが高い品位と熱意を携えていたことに異論はないと思います。事実、審査会におけるアツイ議論が繰り返されたにも拘らず公約的結構に開かれた審査会は、全国的水準においても多彩かつ多才であったことを確信しております。

審査後の総体的印象は、バックスに追いつめられた日本の循環型環境社会に关心が集まり、一般解として共有可能なテーマである「再」のプロトタイプが多く見受けられたことです。

誤解を恐れずに書けば、機能主義の限界に気づき前近代的ノイズを消し去った上で、社会に対し建築が引き受けける仮説としての提案の多くが秩序正しく見事に枠に入っています。それが逆にもの足りない感もありました。しかし、切り口やインターフェースのバリエー

ションは豊富で個別に魅力ある多くのレイヤーを備えていたことや23作者がもつ個々の知性と感性のコンディションと豊かな独創性に対し高い評価がなされました。

また、今年度の試みとした別紙に示す(多元的な評価軸と位置付けた)多くの「市民の声」は、各作品に対する貴重なパラメーターとして作者共々大切にしたいと存じます。

今回出展された学生諸君には、千葉県四会学生賞における高い評価を記憶に留めて頂き、今後それぞれの新しい場所でのご活躍を期待します。

(審査委員長:寺川典秀)

審査委員長 寺川典秀 日本建築学会・千葉支所
 委員 大曾根五 千葉県建築士会
 委員 森田敬介 千葉県建築士会
 委員 桃場隆矢 千葉県建築家協会

委員 稲田忠弘 (千葉県建築家協会)
 委員 萩原康雄 (千葉県建築士事務所協会)
 委員 長川安雄 (千葉県建築士事務所協会)
 委員 松田富士雄 (日本建築学会・千葉支所)

最優秀賞

● Kid's Camp

TEOH CHEE SIANG 千葉大学 工学部 デザイン工学科



コンセプト

「子ども病院はただ治療する場所にはしたくなかった。『病院』というものではなくて、新しい力を生み出す場所をつくりたかった。」

「健康とは体が丈夫だけでなく、心も豊かであることが大切だ！」

このキッズ・キャンプは、そのようなことをみんなと一緒に実現できる場所にした。

総合的な健康がテーマのアート工場では、造形遊びと施設教育が行われる。上から下への指導路線ではなく、自然発的に子ども達が獲得する論理と大人の知見を同じ土俵に上げ、大人も子どもと一緒に「生きる力」を育んでいってほしい。保健センターでは小児医療の中核施設(現千葉県こども病院)に加え、表現活動と医療活動との関係を繋ぐ媒体として保健教育のプログラムを提案する。

同じ「生きる力」という考え方から既存病院の建築物を活用し、切妻の成長を空間の表現として捉えた。そこで、この計画・設計では空間の完成形はひとつしかない。あるのは空間を繋ぐきっかけのみである。

審査委員講評

経済低迷や環境の世相を反映してか、作品が全体的に「具体的」であったり「再生」をテーマにしたものが多い中で、増築・改修という事になるのであろうか……。何しろ実施コンペティションかと思うようなプランニングと表現で攻め切っている作品であった。気が遠くなる様なスケッチのハンドワークからは、作者の真面目さが伝わって来る。

計画自体は、かなり実現的な部分で考えられている事から、卒業制作に特有の仮説への挑戦といった感覚は無いのだが、Kid's Camp計画への理想と野心がしっかりと繋がられる作品であった。建築の空間やプログラムは「規定」されず、時代と子供達のエネルギーにゆだねられるという考え方には、まさに現代のプロジェクトとしては高く評価したい。

しかしながら、幼児精神というものが、二者関係から三者関係を経て多様な関係社会へと育つ過程で、「経験」の中でも「自由」が存在し得ない事も研究を要すると感じた。

(審査委員:森田敬介)

受賞者の現在

まず、20歳となる千葉県建築学生へのプレゼント一覧にも言えなかった、80%の正直。7年間勉強してきた建築をやめるのは決して楽なことではなかった。でも、14年くらい積み上げてきた体験と真正面から向き合はず建築という道を選んでしまったのも、辛いことはある。それでしたら、何故当初は建築を選んだ?

「建築が好き!」という立派な発言は私にはできなかった。所詮、建築は私の妥協案に過ぎなかった。この立派なキャリアがあれば、もしかして自分の好きなこともできて、家族にも苦労をかけなくて済むだろうと考えていた。ベタなドラマのようだが、家族を支えるために夢を捨てたわけである。しかし、それなりに自分が納得した部分もあるので、情けはなかった。そして、決めた以上は全力疾走で勝負する真面目すぎる学生だったので、力を注いできた7年間も嘘ではなかった。自慢できるものだった。建築も好きになった。

それなのに、何故建築をやめた?

それも、矛盾しているようだが家族のためだった。建築よりもお金の稼ぎ方が見える仕事をした。家族のことを考える時間をもっと与えてくれる会社がよかったです。好きになってしまった建築は、残念ながら稼ぐための仕事にすることはできなくなってしまった。

この人はどこまで家族思いのクサイ話を続けるの? あなた、ご安心ください。

2008年、やっと夢のために生きようと決めた。この原稿が掲載された時は既に仕事もやめて夢に向かってまたしても全力で走っているに違いない。14+7年間をかけてやってきたこと、本当に自分を割りつづけているに違いない。私が「今」やっていることは、アートと言ってくれる人もいるだろうし、現実逃避だと見紹る人もいるだろう。

残り20%の正直は4/9 - 4/14在宅官山で行う活動で少しでも表現できればと願う。活動の詳細はこちらへ <http://www.tcsiang.com>



17th

応募作品一覧

奨励賞	蒲田行進曲 ~City Park Land 構想~	飯田 高大	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞	230m の縁側 ~東京を、好きになる移らし~	南 雄平	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	茂原に住もう Live in MOBARA and Activate MOBARA	永石 悠里子	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
優秀賞	ダイナミックな建築 ~敷地: 南九州 宮崎県都城市~	石沢 英之	東京理科大学 理工学部 建築学科
優秀賞	関係ノ二重螺旋 ~small office village yokohama~	黒澤 清高	千葉大学 工学部 デザイン工学科建築系
奨励賞	TOKYO MEDIA CONVERTER	加藤 修平	東京理科大学 理工学部 建築学科
最優秀賞	re Arena ~地域の体育施設を居住空間の視点から再考する~	伊藤 茉莉子	日本大学 生産工学部 建築工学科
優秀賞	Omotesando Creator's Lab ~魅発の場~	小塙 真太郎	千葉大学 工学部 デザイン工学科建築系
奨励賞・特別審査委員賞	東京・水の回廊構想	平賀 千尋	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	Shift ~歴史的な街並みに合った新たなデザインコードの提案~	林 克臣	東京電機大学 情報環境理学部 情報環境デザイン学科
奨励賞	渋谷川転換	高木 充	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
奨励賞・特別審査委員賞	ペットボトルハウス ~非建築部品を用いた建設の可能性~	川村 国平	東京電機大学 情報環境理学部 情報環境デザイン学科
奨励賞・特別審査委員賞	23 twenty three	東根 章悟	東京電機大学 工学部 建築学科
特別賞・特別審査委員賞	Moving plate (ムービング・プレート)	鈴木 雄介	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
特別賞	TIDE ~竹芝埠頭における水上交通拠点の提案~	稻垣 直秀	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	gather×diffusion ~都心に創る子供の空間~	大山 理香	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	TWICE MY LIFE ~2D+1D 拡購入型住宅取得プログラム~	笠間 洋平	明海大学 不動産学部 不動産学科環境デザインコース
奨励賞	WAVES ~MM21 指合型スポーツ施設の提案~	勝又 洋	日本大学 理工学部 海洋建築工学科

総評

第17回は、18作品のエントリーにより、千葉市生涯学習センターにおいて、審査・展示会を開催。平成17年3月4日 9時45分より順次公開でプレゼンテーションを行い、引き続き作者と審査員で個別に質疑応答、約3時間かけて審査をおこないました。

一次審査会議は、各審査員が上位9作品に投票。記点根拠を示し意見交換が行われた結果、上位11作品が一次審査を通過いたしました。

二次審査では更なる相互協議、意見交換の上、記点・集計・最終協議を行った結果、最優秀賞1、優秀賞3、特別賞2、奨励賞12作品を決定致しました。その後、(社)日本建築家協会主催「全国卒業設計コンクール」の千葉代表3推薦作品を決定。また、3月6日には、建築家と違った視点で評価することを目的に、モンキー・パンチ氏を特別審査員に迎えました。

今年度より新規参入した明海大学不動産学部、東京電機大学情報環境学部の3作品は、各学科の特色をあらわし、それぞれ独自の視点から問題提起が見られました。

他の作品はしっかりととした視点で社会の現状を把握して、2004年の世相を反映したもの、身近な問題を独自の視点から解決しようとしたものが多く、また一方、作者の原体験に基づいておそらく小さいところから漠然と抱いてきたことを作品にしあげたものもあり、卒

業設計としてバラエティーに富んだ作品が集まりました。

作者の考えをじっくり聞いたことにより各作品に対する理解が深まり、作者の思い入れが審査員に伝わって、ますます評価が難かしくなったことは事実であります。各賞の選考に際して審査委員会では、意見が分かれましたが、それだけ今回は充実した作品が多かったという証明になりました。

全体としてははるか遠くを見据えた理想論というよりは、ある面現実的な作品が多かったと思いますが、その中には多くの夢と可能性が盛り込まれていました。

(審査委員長・加藤文男)

最優秀賞

re Arena

～地域の体育施設を居住空間の視点から再考する～



▲草稿設計作品

伊藤茉莉子 日本大学 生産工学部 建築工学科

コンセプト

最近、避けられない自然災害が多発している。被災時には好むと好まざるに間わらず、学校の体育館は臨時の居住空間となることが多い。しかしTVのニュースで毎日のように映し出される体育館での避難生活は、最低限の生活さえ確保されていないのが現状である。

そこで、居住空間となることを考えながら、同時に通常時においても便利で快適なアリーナが実現可能なのではなかったか、という仮説をたててそれを検証してみようと考えた。具体的な敷地を選択せず、一般解を求める試案として提案する。

これは決して、奇抜なものでも新しいものでもないが、アリーナというどこにでもある空間に居住空間という全く異なる視点を与えることによって機能やデザインに新しい可能性を見出せると感じた。同時に、これまで得た思考によって生み出されて来た「建築」そのもののを考え直す余地は、まだ多く残されているように思えた。

審査委員講評

新潟中越地震の避難所風景写真から始まるこの作品は、写真的強いインパクトと、單純で美しい模型との対比的効果によって見る人を捉える。「奇抜なものでも新しいものでもないが、まったく異なる視点を与えることによって機能やデザインに新しい可能性を見出せる」……生活者として建築を見つめる作者の優しいまなざしが感じられ、社会と建築との関わりを改めて考えさせられる。

生活スペースと通路を分ける昇降床や、照明昇降を利用した天井、簡易間仕切り等細やかな検討と単純で具体的なシステムは、独創性・実験性の高い建築のイメージを生活の場として一新させる可能性を有するとともに、緑に埋められた構造形の付属屋と昇り庭に囲まれたアリーナが、シンプルで美しい建築空間として表現されている。JIA全国大会でも審査員の十分な評価を得られ、銀賞を獲得した作品である。
(審査委員:柳田富士雄)

受賞者の現在



▲上：新丸子の集合住宅 下：西日暮里の集合住宅

設計事務所に勤めて3年が経とうとしている。勤め先の事務所は共同住宅の設計依頼がほとんどそのため、私がこれまでに担当した3物件も同様だった。

最初の物件は先輩のアシスタントだった。多摩川沿いに建つ60戸の共同住宅で、そのほとんどは25m²という狭さだったが3.8mの天井高、ロフト、床下収納などの立体的な要素の組み合わせと天井まで続く多摩川を一望できる大開口、居室と間接素材で続くバルコニーにより全く狭さを感じない空間を体感することになった。

2つ目は建築高さ10m以下、RC造4階建て、8つの住戸で構成されていた。規模が小さいこともあって、基本設計は私に任せてくれた。学生のエスキスチェックのようなやりとりを重ね、その素が実現することになった。しかし、10m以下に4層を入れるのは簡単な設計ではなく、構造的な制限の中で設備をおさめて、意匠的にも心地良い空間にする作業には苦労をした。現場の協力のもと完成した時には、竣工した喜びと、引き渡してしまった寂しさでとても複雑な気持ちになった。

3つ目は現在工事中の現場で、線路沿いの細長い傾斜地に建つ3階建15戸の共同住宅。同じオーナーが持つ二つの敷地が4mの道路を挟んで並び、そのうちの一つを私の事務所が担当している。真ん中にキャンティスラブのロフトが浮かぶプランや弧を描く白い天井の吹抜けを持つプランなどで構成される。いずれにしても高い天井高と、床を立体的に配置したことでダイナミックな空間が完成するだろう。

今、4物件目の設計が始まったばかりである。形態的な表現よりも実質的な空間、より豊かな空間を求めてユニットを効率よく積み重ねて行くという所長の考え方も、やっと理解始めたところだ。また、有難いことにやる気を見せれば、それを發揮できる場所をも用意してもらえる。その期待に応えると同時に学生の時に持っていたエネルギーを絶やさないようにがむしゃらにやり抜く、今はそんな時期だと思っている。



18th

応募作品一覧

最優秀賞	R5 ～ゴミ埋立地にOfficeと環境ステーションの結合施設～	佐部利健太	日本大学 生産工学部 建築工学科
優秀賞	離散的関係の集合 ～明治平野における新時代の農業複合型施設の設計～ 渡辺 秀哉	日本大学 理工学部 海洋建築工学科	
優秀賞	NITONA HEALTHCARE COMMUNITY CENTER	木村 麻美	千葉大学 工学部 デザイン工学科
優秀賞	Sub Set	梅澤 竜也	東京理科大学 理工学部 建築学科
特別賞	BEAUTY SQUARE ～BUILDING FOR LADIES～	池本 千恵	東京電機大学 工学部 建築学科
特別賞	+plus ～Tachigare Tomihisa～	野口 貴代	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞・特別審査委員賞	Children Landscape	矢野あさか	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	Minuma Lighting Project	荒巻由里香、岡田亜季子	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	光の射す方へ ～谷中ににおける新しい居住地区の提案～	中山 大地	千葉工業大学 工学部 建築学科
奨励賞	みちの向こうへ ～都市における食文化再考のための施設の提案～ 鈴木 啓史	日本大学 理工学部 海洋建築工学科	
奨励賞・特別審査委員賞	Umihotaru.net ～島地魚市場をウミホタルに移転する～ 田島 勇氣	千葉大学 工学部 デザイン工学科	
奨励賞	原宿駅再生計画 ～街の景色にとけこむ駅の設計～	下橋 邦明	千葉工業大学 工学部 工業デザイン学科
奨励賞・特別審査委員賞	BOARD ～孤(個)を結び街(輪)へ～	齊藤 淳矩	東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科
奨励賞	NO Border ～横田基地周辺再開発計画～	小林 依世	東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科
奨励賞	自然に溶け込んだ別荘地の提案	内記 宏和	明海大学 不動産学部 不動産学科
奨励賞	reversible architecture ～日本橋女子指名作を軸としたまちとかわの再生～ 櫻本加寿美	千葉大学 工学部 都市環境システム学科	
奨励賞・特別審査委員賞	穴×穴 ～山口県萩古吉野刻美術館～	吉川 真一	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	船橋鉄道高架下再生構想	広瀬 大高	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	東京消防災都市構想	則本 弘明	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	LAQUER ～倉庫をコンバージョンした都市型集合住宅のかたち～ 福島 達平	千葉大学 工学部 都市環境システム学科	

総評

第18回は、昨年より2作品多い20作品のエントリーになり、千葉市生涯学習センターにおいて、審査・展示会を開催。平成18年3月24日9時45分より順次公開でプレゼンテーションを行い、引き続き作者と審査員で個別に質疑応答、約3時間をかけて審査を行いました。

一次審査会議は、各審査員が上位9作品に投票、配点根拠を示し意見交換が行われた結果、上位11作品が一次審査を通過しました。

二次審査では異なる相互協議、意見交換の上、配点・集計・最終協議を行った結果、最優秀賞1、優秀賞3、特別賞2、奨励賞14作品を決定しました。その後、(社)日本建築家協会主催「全国卒業設計コンクール」の千葉代表3推薦作品を決定。また、3月26日には、第17回に引き続きモンキーパンチ氏を特別審査員に迎え、協議会の審査員とは違った視点で評価して頂きました。

先行き不透明な今、社会に興立つ学生たちは、どの様なことを考えているのか、20作品を見るとこの時代の問題点をきちんと把握して、個々の視点で回答を出そうとする強い意思が見えてきました。

審査員の期待とおりの、ちから強い作品が展出されました。偶然にも似たテーマの作品があったことは、それがより深い問題を抱えたテーマであるといえるでしょう。

最優秀作品は、その意志が一番強く、この作品を支えるその特殊な構造形式と、空間構成の巧みさが全審査員に高く評価されました。優秀賞の3作品も過度ではなく、最優秀作品を含めた4作品は最後まで評価は拮抗して、各審査員から1位評価を得た作品。もしくは多くの審査員が高く評価したものばかりで、評価を確定するのに長い議論とエネルギーを要しました。

特別賞の2作品は、審査の視点を変えて最優秀賞と優秀賞以外の16作品の中から選考しました。一つは計画手法に心優しさを感じられると評価された作品に、もう一つは女性自身の美から考えて、それを作品の美に昇華したという点が評価されたものです。

(審査委員長・加藤文男)

審査委員長 加藤文男 (千葉県建築家協会)
副委員長 森田敬介 (千葉県建築士会)
委員 小川真砂子 (千葉県建築士会)
委員 大岩義充 (千葉県建築家協会)

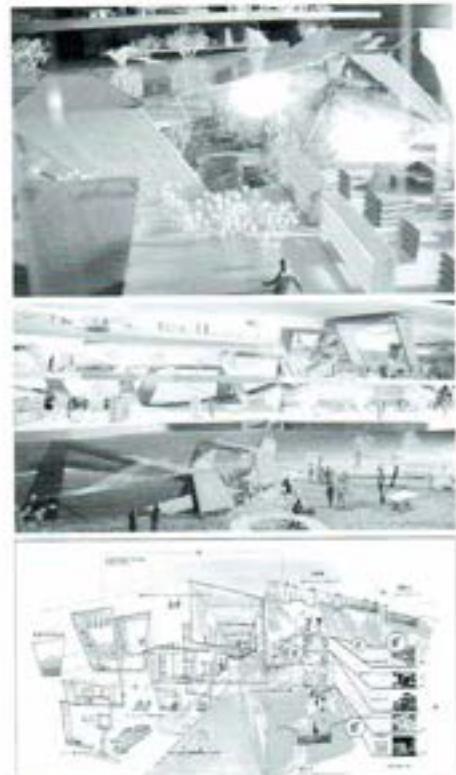
委員 古屋正 (千葉県建築士事務所協会)
委員 鈴木元彌 (千葉県建築士事務所協会)
委員 桐田富士雄 (日本建築学会・千葉支所)
委員 梶原寛夫 (日本建築学会・千葉支所)

2006
平成18年

最優秀賞

R5

～ゴミ埋立地にOfficeと環境ステーションの結合施設～



▲平成設計作品

佐部利 健太 日本大学 生産工学部 建築工学科

コンセプト

R5. 本計画は東京23区のゴミが集められ廃棄される新海面埋立場が計画地です。半世紀もしないうちにこの土地はゴミで埋まり、誰も寄り付かない孤島と化します。処理能力が終わっても半永久的に機能するオフィス環境ステーションを計画します。建つことによりゴミの埋め立面積は減るが、それが存在するかぎり人の意識に作用し、家庭や職場などから排出されるゴミの量を減らし埋立地の寿命を伸ばすことが目的です。生産ラインの先端であるオフィスビルを入れることにとり、消費、廃棄される末端を同じ場所で行うことで社会に対して開いたことを示します。

地盤が考慮し、半分ゴミの積重に埋まる建物をいかに構造を安定させ、更に快速に創造活動が出来る空間を構造を基盤として空間デザインを提案しています。僕がこの埋立地から東京湾を眺めた時、純粋な水平線が望めました。確かに始端には半島が両側から伸びているのに、これは海面の曲面により半島が裏に回っていて見えないためで、同時に地球は異常に丸く小さいことを示しています。

審査委員講評

「何層ものスラブ」と「うねるスクリューのような構造体」を、対比的に組み合わせて立体をつくる。それを深さ30mのゴミ埋立地に象徴する。埋立地はゴミ3mごとに50cmの土砂で覆うことを繰り返す層状断面をもっており、それがみてとれる建築となる。このスクリューのような構造体を、「水平で50cm厚の土砂(=スラブ)」に対する「ゴミのメタファー(暗喩)」と解釈すれば、自由形状も手の痕跡の残る模型のやや粗いつくりも納得できる。

また、スクリュー空間の断面積の変化によって空気圧を操作し、避難路としての安全性を模索するなど、技術面での取り組みにも積極的である。専門分化する現代の建築界にあって、このような構造・設備・防災等を統合するデザイン力は重要度を高めており、全体を見通しまとめ上げる能力の開花に期待したい。なお、図面やダイヤグラム・文章表現はアイデア実現への大きな武器となるため、更なる研鑽が望ましいことを付記する。(審査委員: 梶原寛夫)

受賞者の現在



▲最近の活動状況

僕にはやりたいことがあります。それらを社会からの要望に、いかに近づけられるかが一番重要なことだと思っています。もちろん設計においてもそうで、在学中に引いた機会が社会的に求められるものなのか、すごく不安でした。また、プロジェクトはどのように生まれるのか、資金の出所、そして、図面からどのようにして建物になるのかが不透明で、これを明確にしない限り、先には(大学院)進めない気がしたため、卒業して現場監督になりました。社会に出て勉強することが必要であるし、更に現場に出てしまえば、今までの建築学は役には立たないことに驚きました。しかし、工程を見守っているうちに、教科書に載っていた文字の意味がようやく理解でき、工事の段取り、職人の指示の仕方、そして、何が可能で何が不可なのかの項目くらいは判断がつくようになったのは、所長の手厚い指導があったおかげだと思います。毎回、僕がボンボンとケンカして帰ると、2人で猫打ち(一輪車)で打設しました。自分の指示の失敗で軽く数十万の損失を与える現場はすごく刺激的で重圧も計り知れませんでしたが、日々目に頭が良くなっていく気がしました。

古市徹也都市建築研究所に入社したのは去年の5月からで、企画、基本・実施設計、監理まで行います。担当する物件は集合住宅の現場監理が1件、また博物館が着工します。実施設計では病院があり、ダナンでは日本では出来ない高層ビル(180m)の設計プロジェクトに携わっています。構造・音響を担当する事務所も世界的に活躍している事務所で、大先生と一緒に仕事が出来る環境は身震いする思いです。建築を含め社会では学ぶことは恩きません。これらの少な経験を糧として早く自立したいと考えています。僕にはやりたいことがあります。最も早く叶えたい事は以前、お世話をなった所長に僕の設計を委託することです。まだ時間はかかりますが、日々精進してまいります。



19th

応募作品一覧

最優秀賞	漂流者たちのノード	皆川 拓	千葉大学 工学部 デザイン工学科
優秀賞	GEOGRAPHIC ART MUSEUMS ~地形的空間の可能性~	中村 有希	東京理科大学 理工学部 建築学科
優秀賞・特別審査委員賞	団地ウイルス	古賀 利郎	日本大学 生産工学部 建築工学科
優秀賞	TOKYO ACCELERATOR ～トキヨウブンカエキタイカ～	鈴木 浩文	千葉大学 工学部 デザイン工学科
特別賞	ただいま、ただいま、ただいま、～商店街における学童保育の提案～	鈴木 佳奈	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
特別賞	動き出す建築 ～陰陽の流れ～	田邊 昌基	東京理科大学 工学部 建築学科
特別賞	都市と子どもと学校 ～教育環境と自然風景の融合～	河原 一也	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	ツナガル、デキル	横岡あづさ	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	ジュウニントイロのロジモヨウ	岡本 蘭佳	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞・特別審査委員賞	connection with…… ~浜松・市民農園から広がる人と自然共生の輪~	仲秋 利香	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞・特別審査委員賞	LINK ～池袋モンバルナス再生Project～	海老澤知絵	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
奨励賞	浅草・マルチモーダルステーション構想	小津野勝也	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞・特別審査委員賞	School.net@the park ～公園をつなぐ学校群の提案～	宮蘭 博	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
奨励賞	京都再生構想 ～観光・ユニバーサルデザインの視点から～	土川 泰明	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	トシビス	小倉美貴子	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	つかつはなれず	丹沢 柚太	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	一間一路地再生型集合住宅	天草 義仁	千葉工業大学 工学部 デザイン工学科
奨励賞	むすんでひらいで	金子 哲司	東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科

総評

卒業生のめざす建築業界は今、耐震偽装や競合問題など業界自体の足元を揺るがされるような犯罪で世間を騒がせている。こうした重い空気が卒業制作の作品に影を落とすのではないかと心配されたが、出展作品は明るく構度も高いと感じた。

作品のプレゼンテーションのスキルはかなり高く、そのテーマには現代のコミュニケーション不足など「心れあい」を背景の問題として扱った作品が多くあったようだ。

卒業制作は年々形態に必然性のあるオンラインの建築デザインを避け、ソフト主体の抽象的なものになってきている傾向があり、本年も特に顕著であったように思う。

これは、匿名性に覆われた社会の中で育った上、さらに建築家に限らず全てのアートについてデザインの枯渇が叫ばれる中、「感じ良く抽象的な」作品が手早く次々と産出されてゆく「勝ち組み経済」の実社会の影響を受けているものとも考えられる。

しかしながら一方で、前述のような課題のテーマが数多く見られたことは、若い世代の裏に潜む人間性が、新しい模索を始めているのではないかという期待が持てた。

審査経過は、最優秀賞の「漂流者たちのノード」と優秀賞の

「GEOGRAPHIC ART MUSEUMS」が飛び抜けて高い評価を得て審査の争点となった。結果は「社会性」に目を向けた前者のテーマへの評価が、最終決定の鍵となった。

また、本年度は千葉県初の学生賞「高校生の部」の開催が特筆される。展示だけの昨年までとは大きく変わり、堂々とした作品は審査側の期待を大きく上回る結果となった。

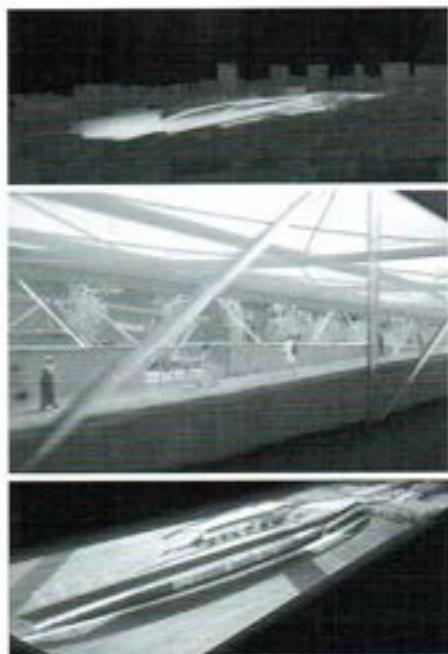
特別審査員は、本年で3回目の漫画家のモンキー・パンチ氏で、センス・人気・人柄と3拍子そろった運営に、賞を貰った学生たちが嬉しそうにしていたのが印象に残った。

結びに、後進の発展に膨大な時間と労力を頂いた、関係の皆様に心から御礼申し上げます。

(審査委員長:森田敬介)

最優秀賞

●漂流者たちのノード



▲卒業設計作品

皆川 拓 千葉大学 工学部 デザイン工学科

コンセプト

—日本に難民と共生する社会をつくる—

全世界に2000万人存在しているという難民。

30年前、日本にも彼らはたどり着いた。通称、インドシナ難民。しかし現在、もともと話す言葉も文化も違う彼らと日本の地域社会との間には様々な軋轢が生じている。僕達は彼らのことを知り、共生する社会をつくらなければならない。

敷地は神奈川県いちょう団地。ここには多くのインドシナ難民、外国人が生活をしている。団地内に閉じこもりがちな外国人コミュニティと、地域社会をつなげるために、700m×80mの大きな道を計画した。それは地域社会にとっての道であり、公園であり、異文化と接する場である。彼ら外国人の文化は衰退する街に対して新しい活力を与える。流れる建築のフォルムは街にとっての新しいシンボルとなる。

難民が社会との接点を持つこと。それは“漂流者たちのノード”



審査委員講評

漆黒のパネルで始まるプレゼンテーションは、流れるように美しいフォルムの模型との対比で強いメッセージを発する。作者がカンボジア旅行で感じ取った貧しい人々への思いから、東南アジア難民という社会問題をテーマに卒業設計に取り組もうとした姿勢にまず感銘を受ける。建築の社会性——「建築が機能や藝術性を超えて社会に対して何ができるか」という私たち建築家が問われる課題に、学生である作者が真っ向から取り組み、持てる力を振り切って表現した力作である。「地域との交流の仕組みとしてのプログラム」は既存の学校や地域特性を活かしながら団地と市街をつなぐとする意図が明確に表現され、「交流を生み出す仕掛けとしての建築」は、様々な施設群が団地から中心市街へのエントリーキーに従って巧みに配置され、アクティビティに触発されて自然に引き込まれる「路の建築」として提案されている。社会への真摯なまなざしと建築への熱い想いを美しいプランとフォルムで表現した作品である。

(審査委員: 桐田富士雄)

受賞者の現在



▲自宅の写真

私は2007年度に千葉大学を卒業し、現在は同大学大学院/岡田哲史研究室に在籍しています。院に進学してからの活動は、研究室での設計プロジェクトに関わりながら建築デザインのあり方を学ぶのが主です。

プロジェクトを進める中で、空間の本質とは何か?また、どのようにすれば建築としての“強さ”をもった空間が実社会で設計できるのかということを考えています。設計プロジェクトの一方で、コンペにも数多く参加し自分のアイデアを社会に投げかけています。そのほとんどは落選してしまうのですが、一つ一つ丁寧に取り組みながら自分のアイデアを表現する技術を勉強しています。

ここでは応募したコンペ作品のなかから入選した作品を掲載致します。これはユニオンデザイン造形文化財団主催のコンペで、テーマは「超豪邸」というものでした。このテーマの中で、私は超豪邸=「世界一早く日の出を見ることができる家」ととらえ、「自覚めの家」というものを提案しました。以下応募案より抜粋です。

—キリバス共和国ミレニアム島。赤道直下、日付変更線をまたぎ、世界一早く太陽が昇る島である。この島に最も高い住居となる100mのガラス塔を建てる。住人はこの部屋から世界一早い日の出を見ることができ、毎朝手付かずの光を手に入れる。100mのガラスの塔は朝日を受けて光輝き、世界に一日の始まりを告げる。島の平均標高は5m。地球温暖化によりいずれこの島は消え去る。しかしこの塔はいつまでも佇み島の記憶を残していく——

院卒業後はアトリエ事務所に勤務し、いずれは独立して自分の事務所を持ちたいと考えています。いろいろと活動をする中でまだ学ぶことが多い感じる毎日ですが、院在学中にできるだけ広い視野と見識が身に付くよう、努力していきたいと思います。

20th

応募作品一覧

最優秀賞	芽吹く切り株 対立の構法を解く ～縮小する大都市周辺部の住宅地再編計画～	西村 祐人	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
優秀賞	陸上海 リク・ウミ ウミ・リク ～石垣から成る風の集落～	小倉 奈央子	日本大学 生産工学部 建築工学科
優秀賞	farmscape ～都市における農業啓発施設の提案～	小松崎 博敏	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
優秀賞	知層 ～体験としての図書館～	石川 智行	千葉大学 工学部 デザイン工学科
特別賞・特別審査委員賞	EMITTER ～ノンバーバルコミュニケーションの発信装置～	利倉 健太	東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科
特別賞	風景が美術館になる時	中村 勲史	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
特別賞・特別審査委員奨励賞	非建築的音空間 ～second summer of love～	山崎 建二	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞・特別審査委員賞	クツヌギ ～まちがサザエさん一家になる～	山田 梢子	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
奨励賞・特別審査委員奨励賞	Expression Lab ～映画・音楽・アート…表現空間の提案～道袋西口～	菅原 愛	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	CANDy CANyon ～渋谷川の水辺・建築空間の開放～	西村 秀勇	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
奨励賞	シモキタの指紋 ～下北沢再開発における街のありかたに関する提案～	小倉 大助	日本大学 生産工学部 建築工学科
奨励賞	新潟・キャナルシティ	今井 尚之	日本大学 理工学部 社会交通工学科
奨励賞	都市を貫く美術館 ～170mのガランドバー	井上 潔	東京理科大学 理工学部 建築学科
奨励賞	移動店铺の機動性を活した新しいオープンスペース	伊藤 聰	明海大学 不動産学部 不動産学科
奨励賞	ランブリングタウン	鈴木 真理	東京電機大学 工学部 建築学科
奨励賞	大森地区・中州・プロジェクト	堤 雅彦	東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科
奨励賞	子どもたちの子どもたちの子どもたちへ	木戸 直規	千葉大学 工学部 デザイン工学科
奨励賞	doughnuts ～Kagurazaka Project in the Road～	岡治 亜友美	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

総評

本年度 第20回を迎えた千葉県建築学生賞は、6大学10学部全18作品の参加を得て千葉市生涯学習センター・アトリウムガーデンにおいて公開プレゼンテーション・審査及び3日間の展示が行われました。

さて作品傾向は概ね住居論系2・空間論系3・環境系2・都市再生系8・地方再生系3の5分野に大別され、今年も「再生化・活性化」の提案が多く約6割を占めています。

審査経過では、「芽吹く切り株 対立の構法を解く」(41得点)が卒業論文から卒業設計へと総合的な論理展開が高い完成度の裏付となり、最終的に審査員全員の合意で最優秀賞に選定されました。

優秀賞の「陸上海」(29得点)は前者に次ぐ得点を得た作品で、若者らしい視点で理想郷を提案した「すがすがしい」作品として高い評価を受けました。同じく優秀賞の「知層」(20得点)は意外性・ダイナミック性・神秘性が注目されました。優秀賞の3つ目「farmscape」は都心における農業の在り方を新鮮な切り口で表現し評価されました。

次に、特別賞は通常2点の選出規定でありましたが、建築の多様性とその表現に審査員の評価が分かれ、候補5作品の中から厳選し

3作品となりました。「風景が美術館になる時」(19得点)は社会性と神秘性を秘めた作品性が、「EMITTER」(12得点)は著名な空間論を援用して自己の空間論の構築に熱心に取り組んだ姿勢が、「非建築的音空間」は詩的表現で建築の広がりを論じた視点がそれぞれ別段の高い評価を受けました。

その他、奨励賞の作品も力作・労作が認められ、何れも将来有望ではないかとの評価を得られたことを申し添えたいと思います。

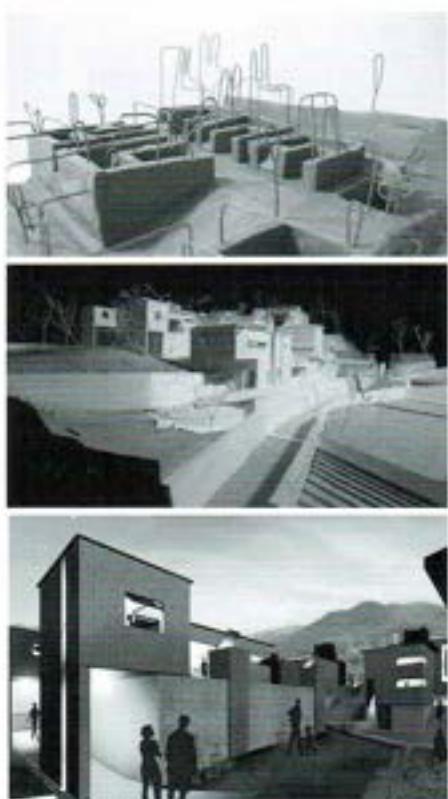
第20回千葉県建築学生賞の各受賞者はその作品の高い評価を記憶に留めて頂き、これからも新しい環境でのご活躍を期待しております。

(審査委員長：星野一治)

最優秀賞

芽吹く切り株対立の構法を解く

縮小する大都市周辺部の住宅地再構築計画



▲卒業設計作品

西村 祐人 千葉大学 工学部 都市環境システム科



コンセプト

木とコンクリートの組み合わせによる建築に関する研究より、その木部とコンクリート部との役割分担が、時間経過の中での生活者の要求を受容し、また、地域的多様性と近代的合理性との対立の構図に協調を見いだすことがわかった。そんな木とコンクリートの組み合わせによる建築の方法論を元に、縮小する郊外において、場所の記憶や時間を引き継ぐことのできる集合住宅の提案を行う。

ここでは、既存住宅のRC構造部や周囲の土木構造物を「都市の切り株」として一体化的に捉え、その大地から生えた「切り株」を土台に、老朽化した木造部分を再構することで、新たな生活空間を芽吹かせる。この試みは、今日的価値により切り捨てられた「切り株」に敬意を払い、それらの寿命を全うさせるべく活かすことで、そこに新たな空間の可能性を獲得し、持続可能な社会における魅力的な住宅地のあり方を探求することであった。

審査委員講評

社会性、詩情に話題が集まりやすい作品群のなかで、堅実すぎるとの見方もできようが、以下の点で学生賞にふさわしい。まずは、調査研究をもとにした「卒論」で培った知識を、「卒業」に昇華させている取り組み姿勢。次に「切り株」が敷地単位での建築の下部構造を越え、広域の生活環境をつくるRC基礎全てに及ぶ着想の広さ。つまりランドスケープ・アーキテクチャであり、切り株(RC)の上に、風や水や緑を巻き込んだ環境集合体(木製)を芽吹かせている。第3にプレゼンテーションの巧さ。図面表現では抑制的効いたポイント色がモノクロームを際立たせる。これから芽吹くであろう若葉や花にまで連想が及ぶ五彩が、美しい墨色に内在する。また模型にあっては、(木製)を表わすヒノキ材に対し、(RC)をグレーの素材ではなく木製=バルサで作っている。つまり(木製)と(RC)の「対立」は、敵対ではなく協調の関係にあることを模型材料に語らせていているのである。そして模型が乗っている台はぐるぐる巻きのダンボール紙であり、年輪のある「切り株」のメタファー。——詩情とは雰囲気ではなく、観る側の想像力をいかに芽吹かせるかで決まる。(審査委員:柳瀬寛夫)

受賞者の現在



▲上：木の木の下の湯浴びの場
下：福山市に残る江戸時代からの町家

20周年にあたる年に賞を頂くことができた私にとっては、この卒業制作こそが、まさに現在の様子を端的に示したものであると言える。これまでの集大成である、この卒業制作の発想の源は、ここ数年の間に徐々に形成されてきた建築的思考や経験によるところが大きい。ここでは、現在から少し振り、そのような経験のうち二つを取り上げ紹介してみたいと思う。

一つは、「木の木の下の湯浴びの場」という兵庫県北郷の小さな集落に建つ2層分のきわめて小さな風呂小屋の設計である。これは、新たな構造の敷設により立ち退きになる民家や高層の古材、壁土、東石、そして五右衛門風呂の風呂釜を用い、「湯浴びの場」として、自分たちの手で転生させたもの。これは集落に住む人々にとっての原風景を奪う開発に対するささやかな抵抗であると同時に、風呂焚き・湯浴びという素朴な楽しみを再生しようとする試みであった。

もう一つは、広島県福山市朝ノ浦、江戸時代から残る町家を改修し、旅館として再生させたプロジェクトである。破戸や出格子など町並みを形成する重要な要素を精密に修復しながら、宿泊施設としての新しい機能を入れ込んだ。繰り返しながら改修を重ねる土蔵の腰板を参考に、ものそれ自身の継承と、そのものに内在する使い続けるための精神的文化の継承、この両者を意識し、古い部分に新しい部分を取り合せ、そのつなぎの部分に空間的魅力を結集させた。

これらのプロジェクトや卒業制作を通して一貫して持ち続けてきた考え方とは、「大きな自然の構造、風景、そして時間の一部としての建築をつくりたい」ということであった。今回の建築賞でも、その点が評価され非常にうれしく思う。大学院では景観やランドスケープを勉強する研究室に所属する。これまで以上に総合力が問われることとなりそうだ。今回頂いた賞を励みにし、研究・設計を続けていきたいと思う。

氏名	所属
鶴田 成男	(有)ときた建築設計事務所
柴野 萬	柴野建築設計事務所
千葉 茂	一般建築士事務所 千葉建築設計室
明智 克夫	(株)榎本建築設計事務所
桑田 昭	(株)桑田建築設計事務所
範 佳正	範建築設計事務所
加藤 実男	故人
青山 靖	(有)青山建築設計
成毛 四郎	成毛建築設計事務所
清水 怡	(株)清水一般建築士設計事務所
細井 紀男	細井建設(株)
飯島 宏治	(有)飯島建築構造事務所
夏目 脩也	夏目設計事務所
柴山 謙一	故人
岡田 成和	(株)岡田建築設計事務所
島貫 慶秀	(株)シマ建築設計事務所
石田文太郎	(株)アイビー工房建築設計事務所
田中 修一	(株)田中建築設計事務所
藤本 芳明	藤本建築設計事務所
横山 朝夫	横山建築アトリエ
村上 一孝	(株)格設計
仲沢 和利	栄和設計(株)建築事務所
岩崎 哲朗	(株)シティクリエート
宇野 武夫	(株)UCA・都市建築設計事務所
寺川 典秀	(株)意匠院
加倉井砂男	千葉敬愛高等学校
相原 敏郎	故人
山田 孝一	アトリエスカイ
甲田 義明	(株)甲田企画設計事務所
高速发展	高速发展
榎本 雅夫	(株)榎本建築設計事務所
宮崎 輝祐	(有)東越一般建築士事務所
斎藤 博	(株)フジプラン
櫻井 修	(株)桑田建築設計事務所
神田 忠弘	(有)神田綜合建築設計事務所
鶴澤 敏雄	鶴澤設計事務所
杉井 佐内	あかり建築設計室
安川 譲	(有)マイケン
小高 芳夫	千和建設(株)一般建築設計事務所
草彅 界司	故人
高安 一夫	(株)千葉縣建築住宅センター
森田 敏介	森田建築設計事務所
佐竹 良造	(株)佐竹建築設計事務所
大岩 義充	(有)アイム設計
江川 保雄	(有)江川建築設計事務所
根本 正明	アーキ・テクノ(株)一般建築士事務所
小林 裕	店設計
長谷川清次郎	(株)長谷川清次郎設計事務所
高木 寛一	(株)都市造形事務所
加藤 文男	(有)ときた建築設計事務所
古月 勝昭	古月建築研究所
小川眞砂子	小川建築設計事務所

氏名	所属
橋山 健治	(株)橋山建築都市総合事務所
石塚 康希夫	生活協同組合千葉県勤労者住宅協会
齊藤 俊夫	(有)齊藤建築設計事務所
中村 良広	千葉測量企画一般建築士事務所
荻原 幸雄	(有)荻原建築設計
橋場 隆夫	(株)橋場建築設計事務所
市原 創久	(有)市原建築構造設計事務所
泉川 安雄	泉川建築事務所
平山 幹夫	(有)幹設計
内山 洋史	内山一般建築設計事務所
古里 正	(有)古里設計一般建築士事務所
家永けい子	デザインルーム T+K
小川 夏子	デザインハウスオガワ
秋山 幸	(有)秋山総合設計
星野 治	(株)星野建築設計事務所
荒井 指三	(有)荒井設計事務所
山岡 豊	(株)山岡設計事務所
飯嶋 茂信	(株)T&C建築研究所
古川 民次	古川設計
柳田富士雄	(株)INA新建築研究所
小島 聰	千葉県立東総工業高等学校
村井 一知	(株)村井建築設計事務所
柳瀬 寛夫	(株)岡田新一般設計事務所
鈴木 元晴	(有)鈴木元晴設計室
伴流 忠夫	(有)伴流工務店建築設計事務所
千葉 正徳	(有)千葉建築設計事務所
染谷 昭二	(株)新設計
大塚 慶二	(株)ウツズスタッフ一般建築士事務所
石毛 満	(有)m.ISHIGE都市デザイン研究所
井上 茂實	(有)アイビイ企画一般建築士事務所
沼田 正雄	建築事務所アルボス
武田 明広	千葉県立市川工業高等学校
森 真理恵	1級建築士事務所 森真理恵設計室
大木 建雄	(株)東宏設計事務所
信太 義晴	信太義晴建築研究所
山下 熊	熊業・設計工房
大和田三浩	アイズ建築計画
安達 文宏	安達文宏建築設計事務所
桑田 浩司	(株)桑田建築設計事務所
皆川 拓	千葉大学大学院工学研究科 岡田哲史研究室
鈴木 浩文	千葉大学大学院工学研究科 岡部明子研究室
平宅 武司	立川ブラインド工業(株)
杉田 浩優	コクヨ東京販売(株)ソリューション本部
鈴木 周二	(株)鈴木ユニット
恩田 薫行	(株)恩田商工
久保村 明美	(社)千葉県建築士事務所協会
山仲 康夫	(社)千葉県建築士事務所協会
小川 恵子	(社)千葉県建築士会
矢内 美恵	千葉県建築家協会
島田 雄	(社)千葉県建築士事務所協会

●共催

千葉市生涯学習センター

●後援

千葉県

千葉県教育委員会

千葉市

千葉市教育委員会

千葉県工業系高大連携推進委員会

NHK千葉放送局

千葉テレビ放送

ケーブルネットワーク千葉

千葉県ケーブルテレビ協議会

朝日新聞千葉総局

読売新聞千葉支局

毎日新聞社

産経新聞社千葉総局

日本経済新聞社千葉支局

千葉日報社

日本建設新聞社

日刊建設工業新聞社

日刊建設通信新聞社

●協賛

(株)青井黒板製作所

(株)イトーキ千葉支店

(株)INAX東関東支社

大多喜ガス(株)営業本部

(株)大塚商会営業本部PMソリューション第1営業部

(株)岡村製作所千葉支店

(株)角藤千葉支店

(株)川島織物

元旦ビューティ工業(株)東京支店千葉営業所

(株)建築資料研究社／日建学院

京葉ガス(株)リビング営業部

孝和建商(株)

(株)国際技術コンサルタント

コクヨマーケティング(株)

小松ウォール工業(株)千葉営業所

三協立山アルミ(株)千葉営業本部

三協フロンティア(株)

(株)サンゲツ千葉営業所

三和シャッター工業(株)千葉支店

新光硝子工業(株)

(株)鈴木ユニット

須藤黒板(株)

(株)総合資格／総合資格学院関東本部

太陽工業(株)

田島ルーフィング(株)

立川ブラインド工業(株)千葉地区支店

千葉ガス(株)エネルギー部

(社)千葉県建設業協会

千葉県建設防水工事協同組合

(株)千葉県建築住宅センター

(株)千葉住宅サービス社

千葉県室内装飾事業協同組合

千葉県耐震判定協議会

(株)千葉測器

津田沼サンベディック

東京ガス(株)千葉都市エネルギー部

東京書籍

東京電力(株)千葉支店

東京ハマタイト(株)

TOTO(株)東関東支社

東リ(株)千葉営業所

協同組合千葉県鐵骨工業会

ナブコシステム(株)東関東支店

日本E.R.I.(株)

日本ファイリング建材(株)

(社)日本建築構造技術者協会・千葉(JSCA・千葉)

(株)日立ビルシステム東関東支社千葉支店

不二サッシ(株)千葉営業部

文化シャッター(株)千葉支店

(有)ミノル商事

(株)ムトーエンジニアリング

メガソフト(株)

UDI確認検査(株)

リリカラ(株)千葉営業所

(株)レスト

YKK・AP(株)

●主催

千葉県には、建築設計に関する団体として四つの団体があります。それぞれに役割を分担・協力し郷土の理想的な建築文化の構築に努力しております。

社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所

建築に関する学術・技術・芸術の進歩発展を目的とする公益法人。

全国に9支部35支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公園、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

千葉県建築家協会

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家個人の団体。

会員は、社団法人日本建築家協会、千葉地域会の会員を含む、専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

社団法人 千葉県建築士事務所協会

建築士法により開設された建築士事務所の団体。

会員は、建築設計事務所、建設会社設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社建築設計事務所、プレファブ業建築設計事務所等。

社団法人 千葉県建築士会

建築士法により各県に設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。

会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレファブ業等に勤務する建築士。

●主な活動

1. 千葉県建築学生賞

千葉県内に所在する大学で建築や都市について学び、学窓を果立つ学生の卒業設計優秀作品を選考、表彰し勉学研究を励ますことを目的としています。

2. 千葉県建築文化賞：共催・後援

地域の周辺環境に調和し景観上優れている建築物、及び高齢者や障害者の利用に配慮した優れた建築物を表彰することにより、建築文化、居住環境に対する県民の意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを進めていくことを目的としています。

3. 千葉県耐震判定協議会

千葉県内の既存建物に対する耐震診断・補強等の性能評価に関する判定をおこない、大学、専門実務者等と広く社会に対し、建築物の耐震改修の促進とその適確な実施を図ることを目的としています。

2008 千葉県建築学生賞20周年記念パーティー



企画 千葉県建築学生賞協議会20周年特別委員会
発行者 千葉県建築学生賞協議会 会長 森田敬介
編集委員 小島聰 安達文宏 藤田浩司 鎌川拓 鈴木浩文
佐竹良造 寺川典秀 宇野武夫 鶴 佳正
事務局 社団法人 千葉県建築士事務所協会内 千葉県建築学生賞協議会
〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5 建築会館6F
TEL 043-224-1640
発行年月日 2008年5月30日
デザイン 渡辺悟
印刷 (株)三和印刷社

千葉県建築学生賞20周年記念

企画・発行：千葉県建築学生賞協議会20周年特別委員会